

No.7 >>> Contents

●提携支援センターから

京都で「純国産絹製品企画展」を開催	1
提携支援センター活動日誌No.7	5
純国産絹マーク使用許諾について(平成21年度第1次分)	6
純国産絹マークの仕掛け人は語る①	9

●今月の話題

「絹の郷シンポジウム&現地見学会」を開催 群馬県農政部蚕糸園芸課 主幹 岡喜久男	11
---	----

●国内情報

繊維物の集散地を核とした和装繊維産業の工程間連携に関する調査報告書から 経済産業省 近畿経済産業局	15
10月18日(日)、第4回きもの文化検定が実施されます	22

●海外情報

ブラジル蚕糸業の現況 フジムラ・ド・ブラジル株式会社 社長 坂本雅	24
--------------------------------------	----

●トピックス

国内産地情報、海外情報(中国)	30
-----------------	----

●シルク豆辞典

シルクの豆辞典(22) 故事・農諺(2) - 桑麻の交わり - 信州大学名誉教授 嶋崎 昭典	33
---	----

●イベント情報 36

●登録コーディネーター一覧 38

●純国産絹マーク使用許諾者一覧 41

●蚕糸関係博物館一覧 43

●蚕糸関係団体ホームページ一覧 44

●統計資料 45

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

京都で「純国産絹製品企画展」を開催

財団法人 大日本蚕糸会

蚕糸・絹業提携支援センター

システムクリエーター 宮下 昌則

「日本の繭・生糸でつくった純国産絹製品、今や貴重な存在となってしまった日本の繭・生糸！」のキャッチフレーズで京都において開催した「純国産絹製品企画展」について報告します。

なお、本展示会は、(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター(以下「提携支援センター」という。)が実施している蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の一環として、(社)日本絹業協会(以下「絹業協会」という。)が開催したものです。

開催趣旨

きものの愛好家が日本一の密度で存在する、きもの文化の中心、京都において、繭、生糸から織、染まで全て純粋の国産品である純国産絹製品の初めての展示会を行いました。

本展示会は、京都を中心とした関西在住の消費者へアピールとするものですが、併せて、小売店、絹織物問屋等関係者に対する提案訴求を目的として、純国産絹製品の希少価値の認識の向上にも役立てるものです。



写真1 純国産絹製品企画展の会場風景

京都で開催した理由は、京都が消費者の絹やきものに対する感性が日本で一番豊であると思われるからです。また、今後参入が期待される提携グループの中心企業や純国産絹マークの許諾企業は、京都を中心とした関西地方の製織、染色、問屋、小売の関係者が多いと考えられるからです。

日時及び会場

平成21年5月31日(日)～6月3日(水)に、京都産業会館4F展示場(京都市下京区四条通烏丸)にて開催しました。

出展企業及び製品の特徴

出展企業は18社でした。純国産絹製品の製造販売を行う「蚕糸・絹業提携グループ」又は「純国産絹マーク」の使用許諾者ですが、

- 各社の代表的製品を展示しました。
- 国産繭・生糸の希少性ととも、どこに国産の良さがでているかを簡潔に明示し、アピールしました(染色性が良い、風合いが良いなど)。
- 「純国産絹マーク」には、製品の生産履歴を示しました。

絹業協会を用意した「出展目録」の他に、各社はそれぞれの製品の特徴を簡潔に記述した「製品説明パネル」に加え独自のパンフレット・写真や蚕児、繭、天蚕繭、生糸などを展示して入場者にアピールしました。幾つかの社は、専門の説明員を待機させ詳しく製品の説明を行い好評でした。

申込順に、各社の特徴を記述します。

- **(株)高島屋**—振り袖、長襦袢。那須南の繭から始まる提携のプライベートブランド。
- **(株)千總**—振り袖、訪問着他。徹底した飼育管理による優良繭。提携による製品。
- **(株)伊と幸**—絵羽付柄、色無地他。蚕品種「松岡姫」「上州絹星」による製品。
- **(株)銀座もとじ**—大島紬、小紋他。蚕品種「プラチナボーイ」による男物きもの。
- **(有)ミラノリブ**—絹ニットスーツ、ショール他。繭染め、上州座繰りによる洋装製品。
- **門倉メリヤス(株)**—絹ニットコート、ストール他。太織度蚕品種「蚕太」による洋装製品。
- **(株)丸上**—色無地、染帯。茨城産繭、21d生糸、小売店のニーズに応じた柄出し。
- **絹小沢(株)**—白生地、胴裏。群馬県の多様な蚕品種とトルマリン加工等による製品。
- **山音(株)**—三越、駒紬。群馬県の繭に水撚り、先練りの技術を駆使した製品。
- **(株)丸万中尾**—江戸小紋、訪問着他。繭、諏訪式座繰り、製織設計、染色の工夫。
- **(株)小倉商店**—結城紬。蚕品種「朝・日×東・海」を10年かけて開発した独自製品。
- **(株)柘屋高尾**—帯。正倉院の帯を再現。蚕品種「新小石丸」による手織りの製品。
- **(株)織匠田歌**—訪問着、帯。座繰り(生繭繰糸)、袋練りした絹糸による提携の製品。
- **(株)織匠小平**—帯。ロット管理した福島繭、工夫した製糸、製織による紋つづれ帯。
- **(有)織道楽塩野屋**—緋、帯他。京都府の色繭蚕品種「都浅黄・黄白」。生繭繰糸。
- **(株)三越**—白無垢一式、裾付他。細織度蚕品種「三煌」。創立335年にちなんだ柄。

- **綾の手紬染織工房**—先染着尺、ショール他。蚕品種「小石丸」を座繰り。草木染め。
- **田中種併**—江戸小紋。極小紋型・伊勢型による極型小紋。提携技術による製品。
(各社の「製品説明パネル」から筆者がまとめました。)

パブリシティ及び入場者

展示会のパブリシティ（広報）は、4月末に京都織物卸商業組合の定期送付物に案内状を同封して組合員に案内しました。更に、5月27日（水）に京都商工会議所の記者クラブでレクをしました（19社分の資料を配布）。その結果、地元京都新聞（H21.5.29）に記事になりました。5月31日（日）を中心に切り抜きを持った来場者（きもの愛好の婦人、夫婦）が見られました。

同じく27日（水）及び31日（日）に専門紙8社にレクをしました。その結果、会期前（染織文庫 H21.5.25、京都新聞 H21.5.29、日本繊維新聞 H21.5.29、きものねっと H21.5号）及び会期中・後（日本

農業新聞 H21.6.1、織研新聞 H21.6.1、染織新報 H21.6.6、F通信 H21.6.9、日本繊維新聞 H21.6.10、染織文庫 H21.6.10、日本繊維新聞 H21.6.15）に記事になりました。

当会場が京都の中心地にあり、大阪から小1時間程で来られるアクセスの良さから会期中4日間で600人程度の入場者がみられました。一般入場者の中には、主に洋装（シルクニット）ですが値段はいくらか、どうやったら入手できるかと質問する方もあり、それぞれ連絡先を案内しました。

また、同時開催となった裏生地・染漬問屋主催の「京都商談会」等に来場した前売問屋、呉服店、デパート等の担当者が来場しました（相乗効果が見られました）。

むすび

「純国産絹製品企画展」を手探りで開催できました。従来は、デパートの会場やジャパンシルクセンターでの開催であり、それなりのパブリシティやチラシの配布が会



写真2 純国産絹製品企画展での打合せ風景



写真3 受付

場側の方でなされるが、今回は広報を含め全て自前で行わざるを得ませんでした。これからは、より成果を上げるため、展示会企画、ニュースレターの作成、リーフレットの作成などで広告代理店の手助けを借りるなどを検討する必要があると考えます。

本展示会を開催・終了できましたのは、ひとえに、会場設営、記者レクの手配、会場運営等に協力して頂いた京都織物卸商業組合、西陣織工業組合、(社) 京都産業会館、出展企業、会場企画設営会社、新聞記者等の関係各位のお陰です。あらためて深く感謝申し上げます。



写真 4 会場全景

支援センター活動日誌No.7 (H21.5.1 ~ H21.6.30)

年月日	活 動 内 容 等
21.5.12	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
21.5.21	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会 (福島)
21.5.27	「純国産絹製品企画展」(H21.5.31 ~ 6.3 於：京都産業会館)に係る記者発表 (京都)
21.5.31 ~ 21.6.3	「純国産絹製品企画展」(京都産業会館)の実施及び支援 (京都)
21.6.3	全国製糸連絡協議会総会にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明 (東京都有楽町 蚕糸会館)



和装のメッカ京都で純国産絹製品をアピール

純国産絹マーク使用許諾について（平成 21 年度第 1 次分）

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 21 年度第 1 回審査会を 5 月 12 日（火）に開催しました。今回、18 社（うち、生産履歴の追加申請が 7 社、表示責任者の変更が 1 社）から申請があり、審査委員会で審査した結果、下記のとおり 18 社に対し、5 月 22 日（金）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

この審査会は、本年 2 月 2 日の第 4 回開催に次ぐもので、この結果、これ迄の純国産絹マーク使用許諾者は合計 66 社となります。（本誌 P.41 ～ 42 の許諾者一覧参照）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社岩田 代表者名 村田 知之 京都市中京区姉小路通烏丸西入 柿本町 417 番地 (担当者：村田知之) Tel 075-221-0966 表示者登録番号 056	帯	100 本	蚕品種 あけぼの 繭生産 JA 野村町管内養蚕農家 製糸 (株) 野村町地域振興センター 染織・製織 勝山織物 (株)
有限会社神原呉服店 代表者名 神原 和久 千葉県銚子市双葉町 4 番地 37 号 (担当者：神原和久) Tel 0479-25-0111 表示者登録番号 057	後染反物 (色無地)	30 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房又は (株) 菱健 制作企画 (株) 丸上 意匠 自社
浅山織物株式会社 代表者名 浅山 寿栄男 京都市北区大宮東総門口町 13 番地 (担当者：浅山寿栄男) Tel 075-493-0111 表示者登録番号 058	帯	120 本	企画 丸八生糸 (株) 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 染色 にしき染色 (株) 製織 自社
株式会社やまと 代表者名 矢嶋 孝敏 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5 丁目 27 番 3 号 (担当者：矢嶋孝敏) Tel 03-3356-2171 表示者登録番号 059	帯	60 本	繭生産 群馬県太田市養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 染色 今江染色 製織 (有) 織匠小平
田中種株式会社 代表者名 田中 隆 大阪市中央区南本町 2-1-8 創建本町ビル 3 F (担当者：田中 隆) Tel 06-6261-2091 表示者登録番号 060	後染反物 (小紋)	68 反	繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株) 染色 高田勝 (株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社京扇 代表者名 鈴木 康裕 東京都中央区東日本橋 3-6-6 (担当者：鈴木康裕) Tel 03-3249-6001 表示者登録番号 0 6 1	後染反物 (色無地)	60 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)菱健、 (株)菊堅染工 制作企画(株)丸上 意 匠 自社
株式会社なごみや 代表者名 松本 成央 横浜市都築区中川中央 1-21-16 (担当者：松本成央) Tel 045-900-5466 表示者登録番号 0 6 2	後染反物 (色無地)	30 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画(株)丸上 意 匠 自社
丸池藤井株式会社 代表者名 藤井 博夫 京都市中京区室町通蛸薬師下ル山伏山町 540 (担当者：藤井博夫) Tel 075-223-8001 表示者登録番号 0 6 3	後染反物 (色無地) 八掛	45 反 30 枚	企 画 丹後生糸(株) 蚕品種 新小石丸 繭生産 群馬県安中市養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 吉村機業(株) 染 色 富宏染工(株)
久保商事株式会社 代表者名 久保 善昭 京都市中京区堀川通蛸薬師上ル 金屋町 776 番地 (担当者：久保善昭) Tel 075-841-0111 表示者登録番号 0 6 4	和装小物 (帯揚) (半衿)	500 枚 500 枚	繭生産 群馬県安中市養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株)一色テキスタイル 染 色 (株)アサヒイン、無し 刺 繍 (有)岩滝織物、無し
加賀グンゼ株式会社 代表者名 松井 慎一郎 石川県小松市島町ヲ 1 (担当者：松井慎一郎) Tel 0761-44-5841 表示者登録番号 0 6 5	胴裏地	145 疋	企 画 (株)千總 繭生産 岩手県北部養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 自社
千切屋株式会社 代表者名 熊谷 喜治 京都市中京区高倉通三条下る 丸屋町 160 番地 (担当者：熊谷喜治) Tel 075-221-1151 表示者登録番号 0 6 6	後染反物 (訪問着) (付下) 帯	57 反 14 反 20 本	繭生産 宮城県南部養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 三共織物(株) 染色加工 自社
(生産履歴の追加) 株式会社千總 代表者名 西村 總左衛門 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者：俵武司) Tel 075-211-2531 表示者登録番号 0 0 1	後染反物 (振袖) (色無地・訪問着 ・付下) 胴裏地	650 反 770 反 250 枚	繭生産 宮城県北部又は南部養蚕農家 岩手県又は青森県八戸市養蚕 農家 製 糸 松岡(株) 製 織 美雲織物(株)、(株)松浦絹織 又は(株)竹林、加賀グンゼ(株) 染色加工 自社
(生産履歴の追加) 株式会社さが美 代表者名 小野山 晴夫 横浜市港南区下永谷 6 丁目 2 番 11 号 (担当者：小野山晴夫) Tel 045-820-6000 表示者登録番号 0 3 1	後染反物 (色無地)	350 反	繭生産 群馬県太田市養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 河芳織物(有) 染 色 (株)橘一

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産履歴の追加) 株式会社丸上 代表者名 上達 征次 東京都中央区日本橋久松町四番十四号 (担当者：斉藤清二) Tel 03-3662-4416 表示者登録番号004	後染反物 (色無地・小紋 ・付下) (黒紋付)	50反 50反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房、(株)菱健、 (株)路考又はきもの和楽 意匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社丸万中尾 代表者名 中尾 禧夫 滋賀県長浜市室町180番地 (担当者) 中尾禧夫 Tel 0749-62-1660 表示者登録番号028	後染反物 (江戸小紋・ 色無地) 後染反物 (変一越)	340反 190反	蚕品種 春嶺×鐘月又はぐんま200 繭生産 JA上伊那又はJA碓氷安中管内 養蚕農家 製糸 (株)宮坂製糸所又は碓氷製糸農協 製織 織処丸重、南うちりめん(株) 又は小林商店 染色 (株)一会、柏田屋(株) 又は啓明商事
(生産履歴の追加) 株式会社伊と幸 代表者名 伊藤 公一 京都市中京区御池通室町東入ル竜池町 448番地の2 (担当者：伊藤公一) Tel 075-211-2361 表示者登録番号035	白生地	630反	企画 自社 蚕品種 松岡姫、上州絹星 繭生産 山形県・秋田県・群馬県養蚕農家 製糸 松岡(株)、碓氷製糸農協 又は(株)宮坂製糸所 製織 河芳織物(有)、羽賀恒明、 白数織物(有)又は織処丸重
(生産履歴の追加) 株式会社銀座もとじ 代表者名 泉二 弘明 東京都中央区銀座4-8-12 コチワビル3階 (担当者：遣田恵美) Tel 03-5524-3222 表示者登録番号011	白生地 後染反物 先染反物(大島紬) 染織作家製品	108反 150反 17反 2反	蚕品種 プラチナボーイ 繭生産 千葉県養蚕農家、茨城県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 芋田織物、江口機業(株)、 樋口(株)、田勇機業(株) 染織作家 織楽浅野、山岸幸一
(表示責任者の変更、生産履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林 幸夫 群馬県高崎市問屋町3-5-3 (担当者：土井芳文) Tel 027-361-2377 表示者登録番号021 (表示責任者絹小沢株式会社を 日本蚕糸絹業開発協同組合に変更)	胴裏 長襦袢地 八掛	800枚 300反 500枚	蚕品種 世紀二一 繭生産 安中市、群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 坪金工業(株)、(有)長島織物、 番國(株)、渡辺絹織物 精練加工(有)江島屋染工場 染加工 (有)今井整理 加工 キヌテック(株) 企画 絹小沢(株)

〈純国産絹マークの仕掛け人は語る ①〉

純国産きものは、織り、染め等 きもの技術で差別化を図る

株式会社 丸上

販売部長 齋藤清二さん

今、純国産絹マークは66社（平成21年6月23日現在）承認されています。それぞれは、その中心となる企業等により本マークを適正かつ管理されています。今回は、自ら純国産絹マークの使用許諾を得つつ、きもの問屋部門の立場から傘下の小売店に同マーク取得のコーディネートしているキーパーソンにお話を伺った。

「もともと、地元の繭できものを作り、それを地元で販売したいと福島県のきもの小売店からの要望があり、「地産地消」からのスタートでした。」といわれる(株)丸上の販売部長齋藤部長さん。

高島屋デパートが、オリジナル商品を国産繭で作って販売していた実績から、(株)丸上でも生産履歴の明らかな商品作りをしたいと(社)日本絹業協会に相談。「純国産絹マーク」を知り、申請することとしたのが発端といいます。

当初、JA土浦管内の繭を使用し、土浦市内の呉服店での販売でスタートしました。他の業者のマーク申請と丸上の申請とは、異なるところがあります。前売りから小売店まで「(株)丸上」が担当。その他の蚕種・繭から染色までの部門は、丸上と連携関係にある京都の業者の役割としました。

「純国産絹製品」に魅力を感じていただいた小売店を対象として、このマーク普及のグ

ループの一員として参加を推奨しており、これからも参加される小売店は増えていくと考えられています。

染め、織り等を重視した商品作り

丸上の純国産絹マークの考え方は、糸の挽き方、織り方、組織の変化、染めの分野を広めるなど「後加工に力を入れる」考えであり、単に、国産繭・生糸の希少性を求めるものではないといいます。

「きものを購入していただくお客様は、「色と柄」を選択の要素としていると考えるので、これを優先し、これに優良な繭・糸の価値を付加していく考えです」と齋藤部長さん。

特徴ある蚕品種に依存せず、「普通蚕品種の繭」を安定的に継続性のある事業の構築を目指したものといたします。

同社は、東京・堀留の呉服前売問屋の老舗。「きもの流通機能」を主とし、きものが集まる京都等の集散地問屋からきものを購入、小売店に販売を行います。消費者に近い問屋です。

今、全国20数県の小売店とのお付き合いがあり、それぞれの地域オリジナル商品（きもの）の提供が必要となっています。



多彩な丸上のきもの



純国産絹マークについて大いに語る齋藤部長

対面販売で消費者に純国産絹マークの説明と理解を

純国産絹マークについては、現状の認知度としては、「本場大島紬」ラベルの域には、届いていないと考えられています。でも、きものは対話で販売する商品であるだけに、「純国産絹マーク」を説明しながら、販売できるメリットはあります。「このマークの説明をしながら、お客様とお話ができることは大変必要なこと」と齋藤部長は話されました。

ただし、課題もあります。「純国産絹マーク」の申請を小売店それぞれが行うことは、申請の事務慣れていない方々ばかりで大変なこと。㈱丸上としては、この小売店との連携を強めることと事務的な支援を行うことを行うこととしました。

同社では、純国産絹マークを添付することにより、「きものを高く売る」ことを目的にしています。前述したとおり、小売店の従業員の皆さんが、このマークの説明を行うことによって、きものの「生産履歴」そして、きもの普及の一助としたいと強調されています。

今、世界的な不景気で、「きもの」の売れ行きが冷え込んできているといわれています。もともと、きものは、意匠や染め、織りが同じ商品がたくさん売れるものではありません。

同種のきものを全国の小売店などに分散して、消費者の皆さんに販売しています。このため、純国産絹マークに関しては、同社が一元的に添付や在庫管理を行っています。

農家から機屋、小売店までの連携の強化を目指す

純国産絹マークを付けたきものが流通し始めると、販売している小売店の皆さんは、「養蚕農家や製糸工場に行きたい」という意見が多く聞こえるようになってきたといえます。生産履歴の考えが浸透してきた結果と思えます。特に、稚蚕飼育や農家段階での蚕飼育や上蔭に関心を持っているようです。

養蚕農家から機屋、そして小売店までの生産履歴のはっきりとした一貫した流通が確立すると「蚕糸・絹業提携システム」に移行する前段階となります。

今後、蚕糸・絹業提携システム移行への検討が望まれています。

一方、今後のマークの手続きには、下記の点を要望。「この純国産絹マークは、申請時から添付、在庫管理まで厳格な手続きとなっています。このため、間違った使用はされなと思います。ただ、純国産絹マークについてきちんとやってきたグループには、手続き上、多少のメリットがあってもいいのでは」。

染め、織りの差別化を進め、全国の小売店と連携して、事業推進を図ってきた齋藤部長さん。今後の本マークの普及と純国産きもの販売拡大に期待いたします。

「絹の郷^{くに}シンポジウム&現地見学会」を開催

群馬県農政部蚕糸園芸課

主 幹 岡 喜久男

現在、横浜において『開国博 Y 150』が開催されていますが、まさに 150 年前の 1859 年（安政 6 年）、横浜が開港されました。折しも世界有数の養蚕国であったフランスとイタリアで蚕の病気が流行し、世界的に生糸不足が生じていたことから、優良な日本の蚕種と生糸は一躍重要な輸出品となり、群馬県はそれらの主要な産地としての地位を築き、養蚕は本県畑作地帯の基幹作物として県内各地で広く営まれることとなりました。

21 世紀に入り産業構造や国際情勢がめまぐるしく変化する中で、生糸や絹製品の輸入増などに起因して養蚕農家や繭生産量の減少に歯止めが掛からず、本県伝統産業である蚕糸業の存続が危ぶまれています。

こうした状況下、国から平成 20 年以降の蚕糸対策（以下、「新蚕糸対策」という）が示されましたが、群馬県では、この新蚕糸対策を積極的に推進するための方策として「絹の郷シンポジウム&現地見学会」を開催しましたので、その催事概要を紹介します。

新蚕糸対策推進方策の手掛かり

ご案内のとおり、新蚕糸対策は蚕糸・絹業双方の発展を図る観点から養蚕、製糸、染織、流通、小売にかかわる事業者が提携して、消費者に評価される純国産絹製品づくりを確立し、養蚕農家や製糸業者の経営安定が図れる水準の繭代や生糸加工費が得られる仕組みを作ろうとするものです。

この新蚕糸対策の推進方策を模索する中で、とある絹業者から次のような話を耳にしました。その内容は、（蚕糸・絹業者のご批判を受けることを覚悟の上で、乱暴な言い方をしますと）①川上（養蚕農家、製糸業者）は、生糸・絹実需者が求める繭・生糸を生産していないし、実需者ニーズを



写真 1 「養蚕農家見学」

把握する努力をしていない。さらに、品質も外国産に比べ劣るうえ価格が高い。②川下（製織・流通・小売業者等）は、安さばかりを追求し、国産繭・生糸の特長や日本の蚕糸業の現状をあまりにも知らなすぎる。と云うものでした。

前述の話には、それぞれの言い分もあろうかと思いますが、「絹の郷」を標榜する群馬では、純国産絹製品づくり促進に向けた川上と川下とのビジネスマッチングする機会として、「絹の郷シンポジウム&現地見学会」を企画しました。

なお、第1回は、昨年5月に全国の染織工芸家らを対象に開催。第2回目となる今年は西陣・丹後・長浜・桐生をはじめとする全国の織物産地及び絹製品流通・小売業者へと範囲を拡大したものです。

第2回「絹の郷シンポジウム&現地見学会」

今回の「絹の郷シンポジウム&現地見学会」は、5月29日（金）、群馬県庁ビジターセンターで始まり、30日（土）には蚕の飼育及び生糸加工現場、そして、世界遺産登録を目指す富岡製糸場を巡る現地見学会を実施。その後、蚕糸・絹業提携グループ形成情報交換会を行いました。また、関連企画として、31日（日）に希望者を対象に上州座繰り講習も開催しました。

シンポジウムの冒頭、茂原璋男群馬県副知事から「県が推進する富岡製糸場の世界遺産登録運動は日本の絹文化を残す意味で有意義な仕事。全国の絹業者と手を携えて蚕糸絹業をしっかりと守っていききたい」と歓迎

迎のあいさつがあり、高木大日本蚕糸会会頭理事からは「新蚕糸対策がスタートして約1年半が経過、純国産絹マーク使用許諾を受けた業者は66社、絹製品については147品目になった」など新蚕糸対策の進捗状況が説明され、純国産絹製品づくりによる新しい価値の創造に向けての協力依頼がありました。

なお、参加者は、北は岩手県から南は沖縄県に至る製織・流通小売業者ら100名余りで、『純国産絹製品づくりによる新しい価値の創造』をテーマに熱の帯びた議論や交流が行われ、現地見学を通じて養蚕・製糸現場への理解を深めるとともに、蚕糸・絹業提携グループ形成に向けて情報提供や絹業者のニーズをリサーチすることができました。



写真2 「高木会頭あいさつ」

新蚕糸対策をめぐるさまざまな意見

基調講演を行った、京都市の糸商である（株）深田商店の専務取締役・深田祥二氏は、「新蚕糸対策のスタートにより国産糸の販売促進の形ができたが、一定量以上の繭生

産量をキープしないと産業として残すことができず、まずは普通蚕品種で品質の安定化に取り組むべき」と提言。

また、京友禅の老舗である（株）千總友仙工場代表取締役・俵武司氏は、養蚕農家から製糸、機屋、染色加工と一貫した提携グループづくりのエピソードを紹介し、「共存共栄の理念を掲げてルールブックを作り上げ、2年後には万全な形で提携グループを船出したい」と語られました。



写真3 「深田氏」



写真4 「俵氏」

これに続き、「差別化できる純国産絹製品の製造・販売」をテーマとし、コーディネーターに上毛新聞社の藤井浩氏、パネラーに楠由輝夫（J A前橋市）・高村育也（碓氷製糸農業協同組合）・深田祥二・俵武司・草野洋一（（財）大日本蚕糸会）・狩野寿作（群馬県農政部蚕糸園芸課）の各氏を迎えたパネルディスカッションを実施。

高村氏は「原料繭への支援が無くなれば製糸経営は非常に厳しいと思っているが、養蚕農家があるうちは励ましながら、（絹業者の）要望に応じた様々な生糸を生産・供給していきたい」と語り、俵氏は、「新

蚕糸対策は6年間で支援が無くなる。6年間は短いし、繭価格保証の資金を計算すると生半可な気持ちでは新蚕糸対策に取り組めない。川下（絹業）の業者がどう思っているのかをキッチリとリサーチしないと群馬の蚕糸業は滅びる可能性がある」と厳しく指摘。この発言を受けて、狩野氏は「我々蚕糸業サイドも一層の話し合いをしないとイケない。このシンポジウムが蚕糸業を残すきっかけになれば」と意見を述べ、また、草野氏は、「国産生糸は量的には国産絹の1/100でしかない。消費者が求める織物づくり、生糸づくり、繭づくりができるかである。5年間でやるべき課題は多く、今は目標に向けた助走期間である」と語られました。



写真5 「パネルディスカッションの様子」

自立した蚕糸業の構築に向けた諸施策

国内の養蚕・製糸業が産業として自立するために成すべきは何か。

群馬県は、蚕種製造から繭・生糸・絹の生産を一貫して行える「絹の郷」で、この機能を活かし蚕糸業の維持存続を図るべく

諸施策を講じてきました。

その主なものは、群馬オリジナル蚕品種の育成・普及であり、「群馬の絹」のブランド化推進のため「ぐんまシルク」認定制度を平成7年からスタートさせています。また、「群馬の絹」活性化研究会（平成12年設立）などで、繭・生糸生産段階と絹業者が「分断」している状況を改善すべく、養蚕農家から染織業者、行政、一般消費者を交えての交流会や、川上・川下の連携、「群馬の絹」PR活動なども展開してきました。

昨今、遺伝子組み換えカイコについて国と共同研究を行い、検査用試薬や蛍光絹糸の実用化の目途がたち、新たな産業創出に期待するところです。

なお、群馬県内の蚕糸・絹業提携グループは、平成20年時点で3グループ。繭取扱量は30トンで県内繭生産量の19%に該当します。残り2か年間に全養蚕農家が提携グループに移行することを、目下の最重要課題として諸施策を講じる所存です。

絹織物の集散地を核とした和装繊維産業の 工程間連携に関する調査報告書から

経済産業省 近畿経済産業局

はじめに

きもの市場は年々規模が縮小しており、技術伝承や後継者など、様々な問題が生じている。また、きもの製造から流通、小売に至る各工程は、他の産業に比べても非常に多段階になっているといわれています。この各工程に細分化されている製造・流通構造が、きもの市場の動向にどう関係しているか明らかにするため、経済産業省 近畿経済産業局では、本年3月に標記調査報告を取りまとめている。以下、業界関係者の方々に参考に供したく、その内容を3回に分けて紹介します。

1. きもの市場の現状と消費者意識

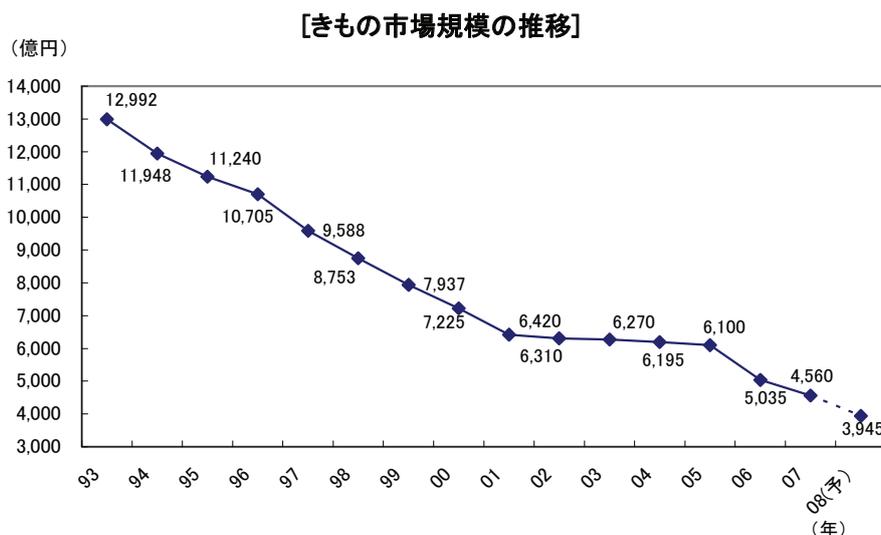
(1) 落ち込み著しいきもの市場の現状

矢野経済研究所推計によるきもの小売市場規模は2008年予測値で3,945億円である。

約1兆3千億円であった1993年から毎年5～10％ペースで減少してきたきもの市場は、2000年以降5年間は6,000億円台前半で推移し、一時的に均衡を保っていた。

しかし、2006年に再び前年比17.5％減と大幅な縮小を記録した後は、市場の縮小に歯止めがかからない状態が続いている。

ピークであった昭和50年代の市場規模と現在を比較すると、当時約1.8兆円あった市場規模は、現在金額ベースで約5分の1、数量ベースで10分の1に縮小している。



矢野経済研究所推計

(2) 過量販売問題

ライフスタイルの変化に伴い年々縮小してきたきもの市場だが、特に2006年に起こった過量販売の社会問題化及び催事中心型販売専門である大手きもの販売企業の倒産により、きもの販売に対するマイナスイメージが広がった結果、催事・訪問販売による販売量が激減、市場縮小を加速させたといわれている。

過量販売の社会問題化

大手小売の倒産

業界のマイナスイメージ
拡大

きもの消費低迷の加速

過量販売問題とは、一人の消費者に対して必要以上の量の物品の購入契約を締結させる商品販売方法であり、気がつく和生活を圧迫するほどに高額な債務を抱えている被害が発生する問題のことである。その背景には1980年代にフォーマル販売路線への転換と、高コストの販売手法である催事販売が主流になったことがあり、またこれらを可能にしたローン販売があった。

きもの小売業界の市場規模のピークは1981年である（矢野経済研究所推計）。1980年代は、1970年代から続く国内の経済成長を背景に専門店が全国展開へと大きく事業展開をする時期にあたり、ボリュームターゲット路線から、高級化、高額化商品のフォーマル路線が顕著になり、販売手法も催事販売やイベント販売が主流となる時代であったが、2006年に倒産した大手きもの販売企業もこの催事販売をビジネスモデルとして急成長した企業であった。

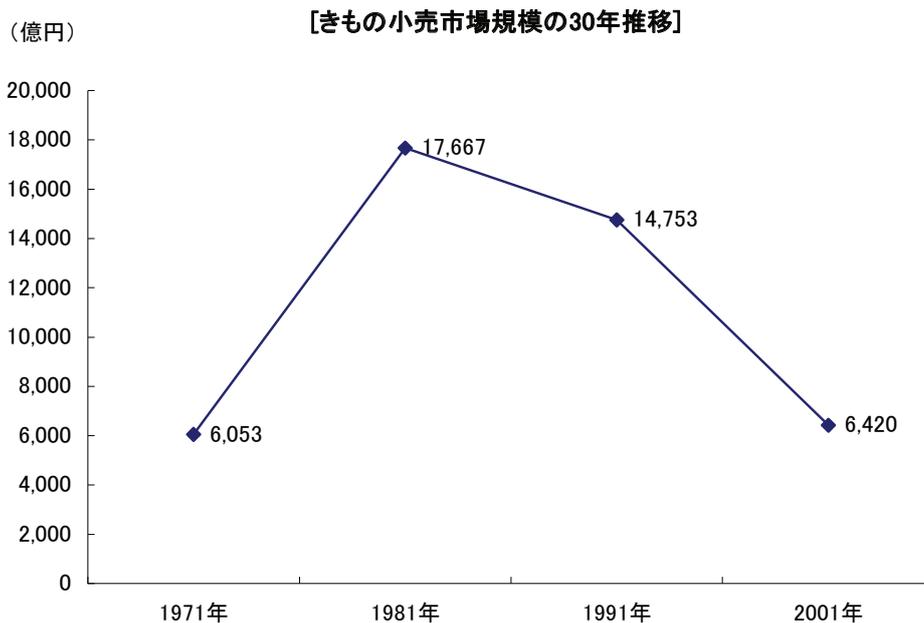
しかし、これらの催事販売は実需に応える形ではなく、過去にきものを購入したことのある固定客に販売し続けた点に問題があった。つまり、これら企業の売上が拡大してもきもの市場の裾野が広がったわけではなかった。

なお、倒産した企業は消費者に対して販売金額にかかわらず60回払いを勧めたり、供給業者によると、業界内でも常識を超えた仕入れ値の10倍近い上代価格設定をしたりするなどの販売手法をとっていたとも言われている。

また、きもの小売業の成長は信販会社のローンに負うところも大きく、大手ナショナルチェーンのほとんどがローン販売によって成長してきたといっても過言ではない。1980年代以後約30年にわたり、固定客に催事販売で高級品を販売するビジネスをきもの小売業が展開できたのは、ローン販売に支えられていた部分大きい。

(参考) ローン販売の問題点

ローン販売では、与信契約が成立すれば販売業者が自ら債権者となって代金回収のリスクを負うことなく与信業者から立替払金が一括で支払われる。特にクレジットカードによらない与信契約である個品割賦購入あっせん取引では、総合割賦方式と異なり限度枠をあらかじめ設定されていなかったり、販売業者が購入者からの代金回収が円満に行われることも考慮に入れた慎重な勧誘販売が行われない可能性が高まるため、契約額が大きくなる傾向にあるといわれる。



矢野経済研究所推計

(3) 変化するきもの購入チャネル

「呉服小売市場チャネル別市場規模推移」をみると、ここ20年間できもの購入の窓口（チャネル）は一般きもの販売店とチェーン専門店がそれぞれ3割以上のシェアを占めている。

2000年から催事訪問販売が伸長し、催事訪問販売市場が百貨店市場を追い抜いた。しかし、過量販売が社会問題化された2006年には前年比65.5%減と大きく落ち込み催事訪問販売市場のシェアが再び低下した。

催事という高コストの販売方法に依存していたきもの小売業は、販売方法の見直しを余儀なくされている現状が本データからもうかがえる。

一方、近年伸びているきもの購入の窓口（チャネル）は「直販・インターネット販売」、「リサイクル」の2つのチャネルである。「直販・インターネット販売」は国内のインターネット普及に伴い今後も有望視されている。「リサイクル」も利用客が増え約7%のシェアを占めるようになっている。

そのほか、きもの着付けの体験を通して、一般消費者のきものに対する関心を広げ売上が伸びている企業もみられる。

これらのチャネルは、従来に比べて低価格の商品が提供されている点、また消費者にとって気軽に商品に接することができる買いやすさなど消費者が不満に思っている点を補完した手法が評価されているものと思われる。

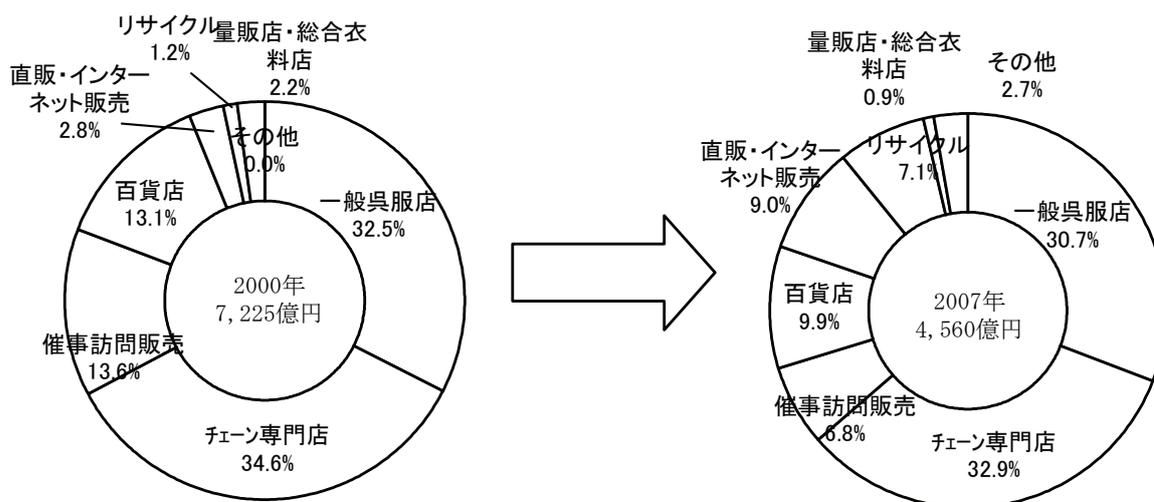
〔呉服小売市場チャネル別市場規模推移〕

(単位：億円、%)

年 度		96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07
呉服小売市場	市場規模	10,705	9,588	8,753	7,937	7,225	6,420	6,310	6,270	6,195	6,100	5,035	4,560
	前年比	95.2	89.6	91.3	90.7	91.0	88.9	98.3	99.4	98.8	98.5	82.5	90.6
	シェア	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一般呉服店市場	市場規模	4,550	3,980	3,340	2,650	2,350	2,170	2,218	2,100	1,980	1,930	1,700	1,400
	前年比	95.1	87.5	83.9	79.3	88.7	92.3	102.2	94.7	94.3	97.5	88.1	82.4
	シェア	42.2	41.2	35.4	33.4	32.5	33.8	35.2	33.5	32.0	31.6	33.8	30.7
チェーン専門店市場	市場規模	2,858	2,640	2,600	2,650	2,500	2,100	1,780	1,800	1,780	1,735	1,600	1,500
	前年比	96.3	92.4	98.5	101.9	94.3	84.0	84.8	101.1	98.9	97.4	92.2	93.8
	シェア	26.4	27.2	32.0	33.4	34.6	32.7	28.2	28.7	28.7	28.4	31.8	32.9
催事訪問販売市場	市場規模	1,274	1,138	1,055	900	980	1,050	1,180	1,250	1,210	1,100	380	310
	前年比	94.1	89.3	92.7	85.3	108.9	107.1	112.4	105.9	96.8	90.9	34.5	81.6
	シェア	11.6	11.6	11.7	11.3	13.6	16.4	18.7	19.9	19.5	18.0	7.5	6.8
百貨店市場	市場規模	1,574	1,420	1,375	1,200	950	650	620	560	530	520	470	450
	前年比	95.8	90.2	96.8	87.3	79.2	68.4	95.4	90.3	94.6	98.1	90.4	95.7
	シェア	14.4	14.5	15.4	15.1	13.1	10.1	9.8	8.9	8.6	8.5	9.3	9.9
量販店 総合衣料店市場	市場規模	449	410	383	277	160	120	90	75	70	65	55	40
	前年比	94.8	91.3	93.4	72.3	57.8	75.0	75.0	83.3	93.3	92.9	84.6	72.7
	シェア	3.9	4.0	4.1	3.5	2.2	1.9	1.4	1.2	1.1	1.1	1.1	0.9
直販・インター ネット販売	市場規模	-	-	-	200	200	210	212	230	280	340	395	410
	前年比	-	-	-	-	100.0	105.0	101.0	108.5	121.7	121.4	116.2	103.8
	シェア	-	-	-	2.5	2.8	3.3	3.4	3.7	4.5	5.6	7.8	9.0
リサイクル	市場規模	-	-	-	60	85	120	200	240	280	310	320	325
	前年比	-	-	-	-	141.7	141.2	166.7	120.0	116.7	110.7	103.2	101.6
	シェア	-	-	-	0.8	1.2	1.9	3.2	3.8	4.5	5.1	6.4	7.1
その他	市場規模	-	-	-	-	-	-	10	15	65	100	115	125
	前年比	-	-	-	-	-	-	-	150.0	433.3	153.8	115.0	108.7
	シェア	-	-	-	-	-	-	0.2	0.2	1.0	1.6	2.3	2.7

矢野経済研究所推計

〔購入チャネルシェアの変化〕



2. 消費者意識

消費者のきもに対する購買実態と意識を調査するため、関東（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）と関西（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）在住の20～40歳代の女性に対し、きものの着用に関する調査を行った。

まず、対象者を

- a. 着たことがある人（着用経験者）
- b. 着たことはないが、これから着てみたい人（着用意向者）
- c. 過去も着たことがなくこれからも着たいと思わない人

の3つに分類し、それぞれに対し、着用状況・意識、購買行動などについて質問した。

併せて近畿圏在住のきものユーザーを集めた座談会を行ないアンケートでは見えてこない具体的意識についてヒアリングを行った。

調査結果の主要ポイントは、以下のとおりである。

①きものを過去も今後もしない理由

きものの着用経験は約89%が「ある」と回答し、「着たことはないが、これから着てみたい」（着用意向者）6.4%となり、ほぼ9割に着用経験があった。一方、「過去も着たことがなく、これからも着たいと思わない」、つまりきもの着用に関心が無いと回答した人は4.7%しかおらず、きもに対する関心が高いことが分かった。

このうち「過去も着たことがなく、これからも着たいと思わない」と回答した人のきものを着たくない主たる理由は、次の3つである。

- a. 着るのが大変（一人では着られない）71.2%
- b. 着る機会がない58.8%
- c. 費用がかかりそうだから48.5%

「a. 着るのが大変（一人では着られない）」とは、自分では着付けができず、着るのに手間取ることを意味している。「b. 着る機会がない」とは、きものを着て出かける場がないことを意味している。すなわち、きもので外出するシーンがないと考えられている。「c. 費用がかかりそうだから」とは、価格が高く、不透明な印象を持っていると考えられる。

つまり、消費者はきもの自体に魅力を感じていないのではなく、

- I. 手間がかかり、面倒であること
- II. 着る場面がないこと
- III. 価格が不透明であること

の3点が障害となり、きものを着ようとしていないと考えられる。

②きもの着用意向者が、これまできものを着なかった理由

きもの着用意向者は儀式（71.8%）やパーティーなどのハレやかな場所（46.2%）へ、きもの

を着て出かけたいと考えている人が多い。

着用意向はあるが、これまで着なかった主たる理由は次の4点である。

- a. 着付けができないから 73.5%
- b. 手入れの仕方がよく分からないから 49.6%
- c. 着こなし方がよく分からないから 48.7%
- d. 気軽に入れるお店がないから 34.2%

着用意向者の着なかった理由は、「着付け」や「手入れ」といった手間がかかることが上位を占めていることはきものに関心のない層と同様であるが、きものに関心を持っているこの層は、「着こなしが分からない」、「気軽に入れるお店がない」といった、関心を持って購入意欲に結びつかない具体的な内容を回答している。特に30歳代女性では、「気軽に入れるお店がない」こと(38.5%)や「きものことを相談できる人がいない」こと(32.3%)を理由に挙げる人が目立った。いざ、きものを着ようと思ってもどこに行けばよいか分からず戸惑っている消費者が多いのではないかと思われる。

③きもの着用意向者の購買決定時に重視する点と購入時の予算

きもの着用意向者が、きもの購入時にどのような点を重視するかについて聞いた結果は、「価格」(82.1%)と「デザイン」(79.5%)の2点が圧倒的に多い結果になった。

さらにその重視する価格について、きものを購入する場合の予算を聞いたところ、仕立代込みで「10万円以下」という回答が53%と半数以上を占め、また「購入はせずレンタルで調達する」と回答した人も34.2%いた。

9割以上が10万円以下の支出できものを着たいと考えていることから、きものをいわばハレの日に着る洋装ドレスと同じ感覚で手軽に楽しみたいと思っている消費者が多くいることがうかがえる。

④今後きものを購入したい人の特性

きもの着用経験者で今後きものを購入したいと思っている年代層は20歳代が多い。その購入時に最も重視するのは「価格」であり、購入する店を決めるポイントは取扱商品の価格帯の他、「品揃え」、「知人などの勧め」、「店の雰囲気」が重要な要素になっている。

⑤まとめ

消費者調査及び座談会を通じたきものに対する消費者の不満をまとめると、次のa～cの3点に集約できる。

- a. 価格（高い、価格が不透明）
- b. 手間（着付け、メンテナンス、しきたり・ルールにあった着こなし）
- c. お店の入りにくさ

まず、「a. 価格（高い、価格が不透明）」については、きものは相対的に価格が高いのに

もかかわらず、価格構造の説明がなされていない。きもの情報誌にも価格が掲載されないことが多く、「一物一価になっていないのではないか」という価格に対しての不信感がうかがえる。

きものユーザーによる座談会でも、きもの販売、サービスに関する問題点として「値段が不透明」、「価格に仕立て代が含まれているかどうかが分かりにくい」「購入店舗によって価格が異なる気がする」などの声があり、きものに関心がない人もきものユーザーも同じように価格の不透明性を問題と考えていた。

次に、「b. 手間（着付け、メンテナンス、しきたり・ルールにあった着こなし）」について、きものは着付けや着用後のメンテナンスに費用と手間がかかることが指摘されている。これらはきもの特性上避けることができないものであるが、加えて着用意向者からは「着こなし方が分からない」という意見が多く、座談会でのきものユーザーからも、「きものに関するしきたりやローカルルールに煩わしさを感じている」という声があった。すなわち、自由にきものを着たいと思っても着るシーンときもの適合性、着こなし方について注意をされたりする点に不満を感じ、気分を害している状況がうかがえる。

また、「c. お店の入りにくさ」については、きものに関心があり手に取ってみようとしても気軽に入れる専門店が少ないという指摘である。

このため、消費者は商品を見る機会が少ないと共に、商品知識を得る場が限られている。つまり、きものを購買対象として検討しにくい環境にあり、消費者にとってきもの販売店は一種の閉鎖的な空間のように見えているのではないかと思われる。

座談会でも「呉服屋さんは自店の強み、カラーを出すべきである。セレクトショップがその店のオリジナリティ、情報発信力によって顧客の信頼を得ているように、呉服屋さんもオリジナリティを出すべきだ」、「お店に一見さんが入りにくい（売りつけられそうなイメージがある）」、「催事の案内（電話での勧誘）が煩わしい」、「アパレルに比べると購入した商品の仕立に時間が掛かるため新規者はじれったいのではないか」といった意見がみられた。

このように、アンケートから抽出された大まかな回答は、きものユーザーからの具体的な声としても確認できるものであった。

(※以下、次号に続く。)

10月18日（日）、第4回きもの文化検定が実施されます

「きもの文化検定」は、「きもの」やきものにまつわる「歴史や文化」についての知識の習得を通して、「きもの文化」への理解を深め、もっと「きもの」に親しんでいただくことを目的としています。

本年度、第4回目を迎え、新たに1級試験が実施されるとともに、昨年の14地区から、新たに静岡地区が加わり、受験の利便性がましております。本年度の開催については、下記の要領となっています。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

[試験要項]

検定内容

級	程度・内容	試験方式	合格基準
5級	きものに関する一般常識の習得 公式教本Ⅰの中から90%以上を出題	マークシート方式による四肢択一方式で 60分・100問以内(5級と4級は同一問題)	5級は60%以上の正解で合格
4級	きものに関する初級知識の取得 公式教本Ⅰの中から90%以上を出題	マークシート方式による四肢択一方式で 60分・100問以内(5級と4級は同一問題)	4級は70%以上の正解で合格
3級	きものに関する中級知識の習得 公式教本Ⅰ・Ⅱの中から90%以上を出題	マークシート方式による四肢択一方式で 90分・100問以内	70%以上の正解で合格
2級	きものに関する上級知識の習得 公式教本Ⅰ・Ⅱの中から70%以上を出題	文言選択・記述方式で 90分・100問以内	70%以上の正解で合格
1級	きものに関する専門知識の習得 きものに関する全ての範囲から出題	文言(語彙)記述と文章記述方式で 90分・100問以内	70%以上の正解で合格

[1級(専門知識の習得)は平成21年度より実施します。]

受験課程 5・4級から受験し、合格をもって順次上位級を受験していただきます。

受験資格 学歴・年齢・性別・国籍は問いません。(但し、受験会場におもむき受験可能な方)

- 併願受験**
- 5・4級と3級を併願し受験することができます。しかし、4級が不合格の場合は、得点にかかわらず3級の受験は無効となります。(但し、受験料は返却いたしません。)
 - 2級は、他級と併願受験することができません。既に、3級認定番号をお持ちの方のみが受験できます。
 - 1級は、他級と併願受験することができません。既に、2級認定番号をお持ちの方のみが受験できます。

受験申込締切日

受験申し込みは、平成21年8月31日(月)(当日消印有効)までです。

合否結果の通知

合格基準に基づき、合否結果を平成21年12月に通知するとともに合格者には「合格認定証」を発行します。電話などでの合否結果のお問い合わせには応じられませんのでご了承ください。

試験日時

5・4級	11:50~12:50	試験(60分)
2級	11:50~13:20	試験(90分)
1・3級	14:00~15:30	試験(90分)

受験地と受験会場

●受験地	●受験会場	●所在地
〔札幌〕	北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」	札幌市中央区
〔仙台〕	ハーネル仙台	仙台市青葉区
〔新潟〕	新潟卸センター	新潟市東区
〔群馬〕	群馬県職業能力開発協会・技能検定場	伊勢崎市宮子町
〔東京〕	拓殖大学文京キャンパス	東京都文京区
〔金沢〕	金沢市文化ホール	金沢市高岡町
〔静岡〕	静岡大学静岡キャンパス	静岡市駿河区
〔名古屋〕	名古屋女子大学汐路学舎	名古屋市瑞穂区
〔京都〕	立命館大学衣笠キャンパス	京都市北区
〔大阪〕	関西大学千里山キャンパス	吹田市山手町
〔岡山〕	岡山大学津島キャンパス	岡山市北区
〔高松〕	サンメッセ香川	高松市林町
〔福岡〕	福岡県中小企業振興センター	福岡市博多区
〔鹿児島〕	かごしま県民交流センター	鹿児島市山下町
〔沖縄〕	那覇尚学院別館	那覇市泊

※試験は希望の受験地で受けてください。

※受験会場は、応募状況などにより変わる場合があります。

受験票でお知らせします。

受験料（税込。払込手数料はご負担ください。）

5・4級（4,000円） 3級（5,000円） 併願（5・4級と3級）（9,000円） 2級（8,000円） 1級（9,000円）

詳しいことは、下記のホームページに記載されていますので、ご覧ください。

<http://www.kimono-kentei.com>

「きもの文化検定」事務局 きもの文化検定事務センター

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入 京都産業会館5階

（社）全日本きもの振興会内（TEL. 075-221-2334）

ブラジル蚕糸業の現況



フジムラ・ド・ブラジル株式会社
社長 坂本 雅

ブラジルの蚕糸業は、ここ数年需給ギャップに苦しんでいるさなかに、昨年後半の世界的な不況のあおりを受け、厳しい状況が続いています。繭は今蚕期約5000トンにまで減り、残った製糸は老舗ブラタク社と新参フジムラ社の2社3工場となりました。両社ともコスト削減はもちろん、販売にも工夫をこらし、お互いが切磋琢磨してこの難局を乗り切るべく鋭意努力を重ねています。ブラジルが大切にしている生糸・撚糸の高品質を守りながら、低迷する生糸・撚糸価格や為替の変動にどう合わせていくかで、言わば苦闘の毎日です。ブラジルだけでなく本家中国でもこの2年、繭が減産していますが、そのために生糸生産が落ちても、世界の生糸需給はまだタイトになりません。経済の底は打ったと言われるものの、採算の合う販売に苦心するという厳しいさが続いています。

弊社は2005年8月からフジムラ・ド・ブラジル(株)としてカネボウシルク・ド・ブラジル(株)を引き継ぎましたが、翌年の2006年3月にはコカマール社が製糸部門の閉鎖に踏み切り、2社4工場体制となり、2009年2月ブラタク社ドアルチーナ工場(旧グンゼ)が閉鎖になりました。ブラジルの蚕糸業は、過去にない厳しさに直面していますが、これには色々な要素があり、ブラジル進出以来の流れにそって生糸・撚糸の販売不振と繭減産を中心にお話します。

販売不振

2006年9月、日本のタケウチ騒動は、ブラジル側の輸出を大きく停滞させました。この年の初めには、久々に瞬間的な仮需が起り、生糸・撚糸の価格も大幅に上がり、数量的にもまとまって動いて、やっと上昇機運に乗り始めたという矢先でしたので、非常に大きな影響を及ぼしました。

弊社もブラジルで仕事を始めたばかりでしたから、どん底から明かりが見えたと思ったら、あっという間に大変な環境になった訳ですが、最初はそこまで深刻に考えていませんでした。

当初、いかに大型店の倒産と言えど、1社ですので、年末には回復するだろうと予想していましたが2007年になっても回復しないうちに、新興国「BRICSの台頭」と持ち上げられたブラジル国の経済発展が急速に進み、レアル（為替）が徐々に切りあがり、2.13から1.70台へ突入して輸出産業は一気に苦しい展開になりました。中国が最大手の生糸生産国ですので、ブラジルだけが為替の切り上げ分を価格転嫁は出来ません。そこで国内販売に期待しましたが、中国から織物はもちろん、生糸・撚糸まで輸入する事態となり、内外ともに厳しい環境になりました。

ただ、日本以外はまだまだ動きがありましたので、その他の国でやっと息をつないでいる状態でした。2008年には、やっと落ち着いて商売が進み始めたところに、9月リーマンショックが起こり、その後の世界的な不況の波が押し寄せ、またも輸出がストップする騒ぎになりました。為替は1.56（7月）から瞬間2.50（12月）まで急落して輸出産業にとっては絶好のチャンスが到来したものの、今度は日本側が「100年に一度の不況」とのことで、買い気がまったく途絶えてしまいました。

2009年に入っても商売が一時停止した状況の中でアメリカの自動車産業政策の影

響か、レアルが強いというよりも一気にドルが弱くなり、この5月29日2.0を再び切って1.92までになっています。

繭減産（労働政策に起因）

視点を農業に移すと、ここ数年世界的な天候異変が引き起こした穀物相場の高騰は、アルコール原料の推進政策とあいまって、またたくまに砂糖キビ・トウモロコシが人気作物になりました。牧場ですら砂糖キビやトウモロコシ畑に転換する騒ぎになり、牧場が減った余波で豊富だった牛肉が高騰するという皮肉な結果も生み出しました。また、世界で珍しい、鳥インフルエンザの被害がない地域なので、南米ブラジルに日本やロシアの商社が殺到し、鶏肉会社が増えて、中には1千人規模の工場を作るものも現れる活況を呈しました。労働者階級出身のルーラ大統領の「貧民層を救う。」という公約は、政策として最低賃金の大幅上昇につながり、2005年に260R\$から300R\$に上がった連邦最低賃金は、350R\$・380・415R\$と毎年大幅に上昇し、2009年2月には、465R\$になっています。ところがブラジル繭生産の90%以上を占めるパラナ州の最低賃金はこの5月でブラジル最高の605R\$となりました。製糸も含めて急速な上昇について行けない業界は、地域で組合を作って、労働者側との合意でこの金額を免除してもらい、連邦（国の最低賃金）に準じているのが実情です。

このため、この数年来、農家の農村離れに拍車がかかり、特に歩合者を中心とした

養蚕農家が、農村から街へ出るという大きな流れを作りました。ブラジルでは、地主と歩合者という制度があり、農作物の代金をほぼ半々で分けます。その取り分を養蚕農家は13で割ってみます。これは勤め人が12ヶ月分の給料と1ヶ月のボーナスをもらうからですが、例えば1回1200R\$の平均繭代を地主と半分に分けて各600R\$。それを夫婦2人で分けた300R\$は2005年までは最低賃金よりも良かったものが、相次ぐ最低賃金の高騰で、今では2人で勤めに出れば、楽に1200R\$以上になり、字が読めなくても、多少の不安があっても家族で街（都市部）に出たがるようになりました。企業が人を募集するには、ざっと700-800R\$以上となり、ちょうど日本で言えば昭和40年前後の、労働者の農村部から都市部への移行期に似ている状況でしょうか。

来伯当初、養蚕がカンナ（砂糖キビ）やミリオ（トウモロコシ）のような人気農作物に負けて養蚕農家が減っているとばかり思っていました。もちろんそれも原因の一つですが、今では養蚕が減る一番大きな問題は社会構造の変化だと考えるようになりました。最低賃金を日本円で考えると、ここ3年で1万円から2万5千円－3万円以上になっていますので、上昇率で、これに勝る農産物はありません。国民全体では6割といわれる貧困層の生活基盤が、農業から工業へ大きく動いていると見るほうが当たっています。

（注）：R\$はレアルのことである。

ブラジルの変化

2007年には、「低く見積もっても受注残が2年はある。」と大手建設会社が豪語するほどの活況を呈し、カンナ（砂糖キビ）工場や鶏肉工場等の建設ラッシュは、最後にはニュースにならないほどでした。私どもの人口4万人の小さな町でも建築ラッシュになり、高給を求めて工場を自主的に辞める人が出ました。

これらも2008年後半には、キャンセルが相次ぎ、今では完成しても支払い不能という事態も起きて、一挙に景気が冷えてきました。2008年年末には、ルーラ大統領が「世界は不景気でもブラジルは大丈夫。」とTVで「買い控え」をしないように呼びかける一幕もありましたが、2009年になってやはりアメリカ経済低迷の影響を受けました。それでも自動車販売が横ばいなのはブラジルだけだと、健闘していると評価する向きも多く、進出日系企業の間でも、「日本は最悪。ブラジルよりまだ悪い。」「こちらで頑張る方が良い。」という意見が多いのも事実です。

そんな中、国内の絹業は、中国の輸入絹織物に押されて苦戦しています。消費者の財布が固くなり、購買意欲が減退して、急に高いものに向わなくなったことも、日本と似ています。そのため、同じものを作っている機業は本当に厳しく、他社と違った製品づくり、原糸の混紡による差別化、多品種小ロットへの転換と進む道はさまざまですが、淘汰が厳しいことは明白です。

販売面でも、この2年、価格交渉の難

しはもちろんです、一旦決めても支払いの分割や、延期の要請が多く、ブラジルの絹業も川下までみな苦戦中です。そのため、はっきり中国から白生地を買い、それ以降で勝負をしようとする機業も出てきました。

コスト増への不安（労働裁判と環境問題）

ブラジルの会社を経営する上で、日本と異質なコストに労働裁判があります。会社は、従業員を基本的にいつでも解雇できますが、代わりに従業員は会社を訴えることが出来ます。詳細は省きますが、この裁判の中身が大きく変わろうとしています。2005年に引き継いだものは、残業や、休日がもらえなかった訴えが多いのですが、今では、環境に関係するものが多く、期間も金額も大きくなりましたし、薬害・公害の裁判は時効がないので、弁護士側の作戦が良いのか、1人が始めると次々と訴えられるケースもあり要注意です。

また、ヘゼルバ・レガウと言って、所有する土地の20%を環境保持のために、自然のままに保全する義務が急に厳しくなってきました。元々あった法律ですが、事実上守られていなかったものを、昨今の「地球の環境を守る」世界的な流れを背景に、厳しい罰金を科して大騒ぎになり、一旦2009年12月まで実施を保留するという事態になっています。

これ以外にも、所有地に川がある場合は25mの幅で植林し、これを使ってはなりません。自分の牛すらその地の水は飲めず、

必要ならば、別に水を引く必要があります。せっかく持っているユーカリの林も使えない部分が出ますし、全体の20%が何も使えない土地になると、収入減に直結し、コスト増大につながります。これがアマゾン川付近では80%使用不可だそうで、試算ではブラジル国土の約7割が該当するとも報道されています。

製糸のこれから

中国は昨年16%の繭減産に続き、この春繭も30%ほどの減産が大きく報道されています。「繭代低迷による養蚕農家の意欲減。」「霜害等の自然減。」とブラジルと同じような理由がならんでいるのがちょっと不思議な気がします。嘉興の生糸相場も4月後半には5Aと3Aの価格が一時逆転する局面が数日あり、それ以降、顕著な値上がりを示していますが、これが本物かどうかはまだ分かりません。ただ、ブラジルから見ると、中国の輸出生糸の60%強を買い入れるインドが、まだ購買意欲が衰えていないように思われます。欧州も昨年後半からの落ち込みがひどかった分、各社在庫はカラカラだそうですので、反転の日は近いと思えてなりません。

ブラジルでは長い間、養蚕農家の廃業を毎年新植農家を造ってはこれを凌いできました。ブラジルは南半球で、日本と気候が反対ですのでこれからが冬ですが、この期間に、新しい農家を増やす努力をしなければなりません。しかし、現実には繭代が上がらない限り、今から増える気配はごくわ

ずかしありません。製糸は、生糸生産量の縮小はコスト増に直結しますので、繭が減るのをいたずらに指を加えて見ているわけにも行きません。日本と違って政府が介入するような農産物ではないので、何をすることもあくまでも自助努力となります。繭代は、この2年、すでに背伸びして払っていますので、増産出来なくても減産しないという知恵を出す必要があると思います、模索しています。

終りに

たまたま、私は近々、フランスに出張し

ます。これはお客様でシルク・ブランド品を作っている会社の80周年記念行事に招待されたもので同社の新工場の落成披露も兼ねています。1週35時間労働。1年1回30日間連続のバカンス休暇。ユーロ圏で、かつ世界でも指折りの高給（日本より高い）。これほど労働生産性も低いフランスで、なぜ新築してまでシルク機業を続けるのか。これは彼らが採算が取れ、厳しい状況の中でも、今後も絹業が続くと確信しているからだと思います。彼らの元気を目の当たりにし、勇気をもらって2009年の後半戦を乗り切りたいと思っています。

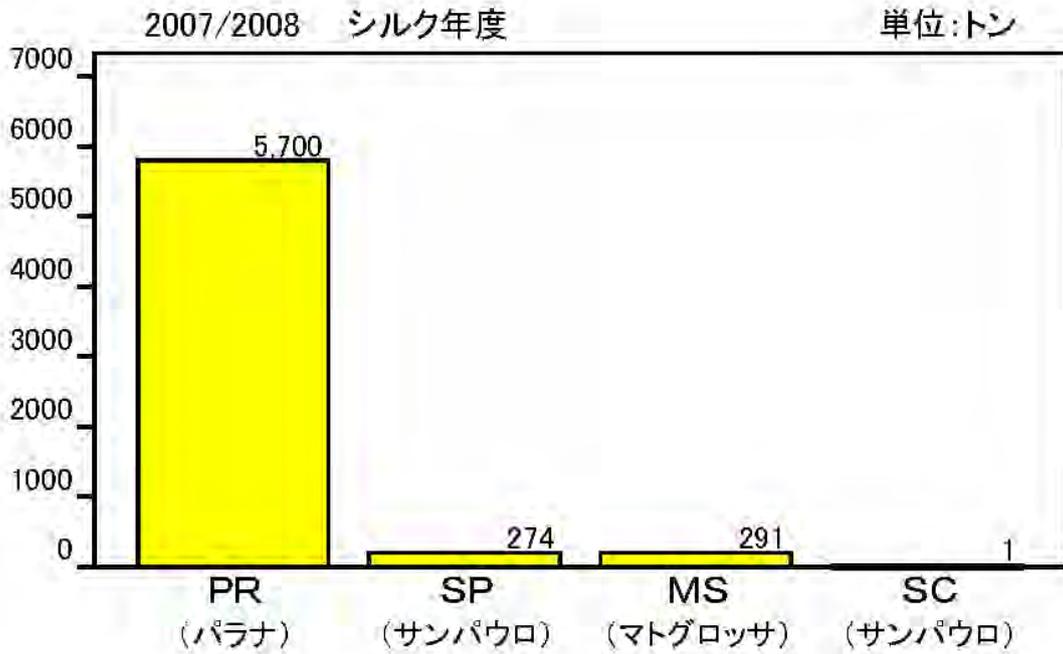
ブラジルの州別製糸別繭生産数量

2007/2008 シルク年度

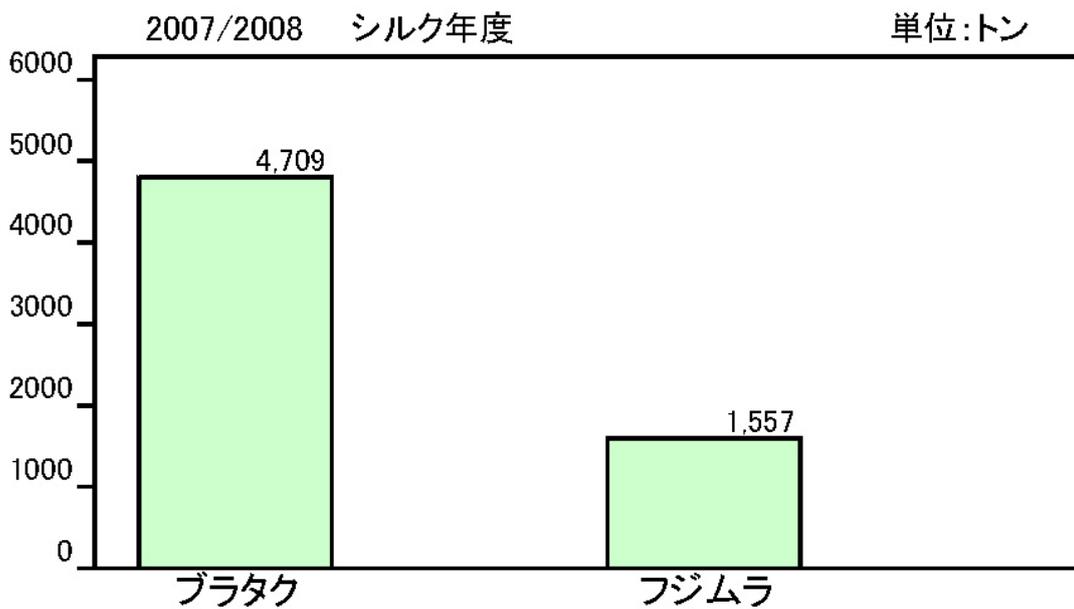
単位:トン

State 州別 Company 製糸別	PR パラナ	SP サンパウロ	MS マトグロッサ	SC サンタカタリナ	Total 計	構成比 %
BRATAC ブラタク	4,156	261	291	1	4,709	75.15
FUJIMURA フジムラ	1,544	13	-	-	1,557	24.85
Total 計	5,700	274	291	1	6,266	
構成比 %	90.97	4.37	4.64	0.02		100.00

ブラジルの州別繭生産量



ブラジルの製糸工場別繭生産量



国内産地情報

絹織物産地の概況（5月）

市況は日を追って低調となり織物生産は減産が続いている

<原糸>

中国の春繭生産が大幅に減少することが確定し、原料価格の値上がりが見られるが、昨年の金融危機の影響からの輸出の減少でバランスがとれている。国内の和装業界は冷え込んだままであり、原料手当ては現物当用買いが続いている。

<白生地>

- ・丹後の縮緬生産は、前年比71%となり、小売りの販売低迷で大幅減産が続いており、工場の廃業、縮小の進行が懸念される。
- ・長浜の生産量は、前年比81%と集散地の新規染出しが鈍く、まとまった注文が入らず前年を大幅に下回る生産反数である。
- ・五泉の生産は、前年比20%の大幅な減産であった。
- ・福島は、和装、スカーフともに低調で今年度に入り益々受注量が減少している。
- ・福井は、受注品の注文の減少で休機、操短で大幅に減産している。
- ・岐阜は、織物生産は多品種、少量生産であるが減産が続いている。売行きは多品種の在庫をもって注文即納品という取り組みである。
- ・群馬・埼玉は、織物生産は減産する中であっても、全く操業を停止する訳にはいかず、多少の見込み生産を続けている。流通問屋からの注文が減少。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、大手産地問屋の催事があったが、新型インフルエンザの影響もあって客数は例年より少なく相対的に苦戦であった。
 - ・山梨は、ネクタイは一部を除き動きは殆どなかった。服地も大半で動きが鈍かった。
 - ・博多は、紋系において八寸名古屋帯が前年比200%と大幅に増えたが平地八寸は大幅な落ち込みとなった。
 - ・十日町は、先月と比べて付下げ同、留袖はかなり減少し逆転している。
 - ・米沢は、呉服は不需要期で生産調整。服地は内地物がシーズン物の生産を開始したが売行き不透明。
 - ・西陣のネクタイはロードサイドブランドの先行き発注があったが、例年の約半分であり予想を下回った。一般品の発注は大幅に遅れている。
- *（社）日本生糸問屋協会月報 21.6.15 第722号による。

海外シルク情報

中国

最近の中国乾繭及び生糸相場価格の現状と見通し

中国のシルク業界がインターネットで伝えてきている最近の諸情勢からみた乾繭と生糸の相場価格の現状と今後の見通しについて紹介します。

中国繭絲綢交易市場の発表によれば、本年第1・四半期に至って、繭と生糸の価格は、以前比べ回復基調にあり、その中でも乾繭価格の上昇幅の方が生糸の場合より大きいものになっている。

本年3月31日現在における取引所の乾繭現物価格は、51,400 元／トン（51.4 元／k g）であり、昨年末に比較してトン当たりの上げ幅は12.45%となっている。同時期の生糸価格は、165,900 元／トン（2,489 円／k g）で昨年末に比較してトン当たり4.14%上昇した。

これら第1・四半期末の繭・生糸価格は、各種の上昇・下降要因が織り込まれて形成されている。

上昇要因としては、次の3つのものが挙げられている。

1. 昨年(2008年)の繭生産は、前年比16%減少し、近年としては大幅な減産であり、現在、供給不足な市場環境にあること。
2. 政府としてシルク製品の輸出増値税の還付率を引き上げており、シルク製品の輸出環境に好転が見込まれること。
3. 中国国内の経済環境がマクロ的にみて好調が見込まれること。

一方、下降要因としては、次の2つが挙げられている。

1. 生糸備蓄制度の買い替えが実施されても、市場に一定の在庫圧力があること。
2. 輸出環境は依然厳しい状況下にあり、主要国からのオーダーは、明らかに減少が見込まれること。

中国シルク業界（シルク輸出組合）の見解としては、これらの諸要因を分析し、シルクの原料段階では供給不足が主導的となり、当面、価格は上昇傾向に推移し、この後、4月下旬の春繭の出廻りが進むにつれて供給が少しずつ緩和し、価格は落ち着いたものになると見ている。

中国生糸検査規則、準備を経て円滑実施へ

中国は、生糸の新国家基準（検査規則）を5年振りに改正し、本年6月1日より実施・適用することになった。

これの正式実施に先立ち、この生糸検査の作成及び業界指導機関である中国シルク標準化委員会は、4月から5月にかけて主要シルク産地（杭州、南寧、南京、成都）にて、関係シルク生産企業、検査機関及び貿易関係者を対象に改正内容の周知・徹底を図るための研修会を開催し、新検査への円滑な移行に備えた。

この新検査規則の主な改正点は、次のとおりである。

- ①従来、強制検査であったが、新検査の受検は任意制となった。（国内での検査は任意となるが、輸出に関しては従来通り受検は必須。）
- ②格付（等級）範囲を6A～Aとし、B、C格を削除した。
- ③検査項目：主要検査（織度偏差、織度最大偏差、糸むら二類、大中節、小節）と補助検査（糸むら類、再繰切断、強力、伸度、抱合）は従来と同様とし、委託検査（糸むら三類、ラウジネス等）に新たに練減（セリシン含有量）検査を加えた。
- ④格付限度水準の引上げ：ア織度偏差と織度最大偏差、イ糸むら二類と糸むら三類、ウ再繰切断、エ強力と伸度、オ抱合における各検査項目の格付限度点の水準を引き上げた。（実質、日本の検査基準に近づくことになった。）
- ⑤小節検査：検査パネル中80点以下のパネルがあれば、最高格の6Aに格付けしないこととした。
- ⑥生糸外観検査におけるかせ重量を欠点ごとに調整することとした。
- ⑦生糸包装：ビニール包装を新たに認めることとした。

*（社）日本生糸問屋協会月報 21.5.15 第721号及び 21.6.15 第722号による。

シルクの豆辞典 (22)

故 事・農 諺 (2)

— 桑麻の交わり —

信州大学

名誉教授 嶋崎 昭典

表意文字の漢字は、古代情報の化石と言われるように、文字の作られた時代の情報を今に伝えてくれます。しかし、文字は文字であって一つの点です。そこへいくと、詩は文章として事象の底流やその背景を語ってくれます。ここではそうした詩の伝える情報も含め蚕糸に関わる故事や諺に注目してみたいと思います。

1. 桑麻の交わり

気楽な交わり、田園に閑居する人の交流、政治経済に関わりない交わり。

「帰りなん、いざ 田園まさに蕪ぶせん
とす」の名句で知られる陶淵明とうえんめい (365 - 427) は中国潯陽紫桑 (今の江西省九江県) の人で、家が没落したので意に沿わない官吏生活を何度か送るのでした。やがてそれにも耐えられず、故郷にもどり田園の中で詩を作り、静かな自適の生活をおくり「田園詩人」、「隠逸詩人」などと言われています (中国名詩選、岩波文庫)。陶淵明 42 歳ごろの作品といわれる「帰園田居 (えんでんのきよにかえる)」3 首のなかに、現在でも多くの人々に詠われる「桑麻の交わり」の詩があります。長いので関わりのあると

ころだけをひきますと、

狗は吠ゆ深巷の中 鶏は鳴く桑樹いただきの顛。
戸庭に塵雑なく虚室に余間あり。野外
人事まれ罕にして 窮巷輪鞅きゅうこうりんおうすく寡なし。
時に復墟曲またきよきょくの中 草を抜いて共に来往す
相見て雑言なく但いだ道のびう 桑麻は長たり
と。桑麻は日々に已に長び 我が土は
日々に已に広し。常に恐る霜霰あられの至って
零落して草莽に同じからんことを

田舎生活は素朴で静かでのどかです。奥の路地裏で犬が吠え、桑樹の梢で鶏が鳴いています。庭も部屋も余分な物は何もなくさっぱり広々しています。仕官の口や営利を求めやかましい音を立ててやってくる車も来ません。偶には村人と草を押し分けての行きずりに顔を合わせる事もありますが、雑言なくただ「桑も麻もよく伸びたね」と言葉を交わすだけです。いま私の恐れるのは、霜や霰あられに襲われて折角育った作物がやられはしないかと心配するだけです。と田園詩人はうたっています。そうした淵明の心境を古人は「桑麻の交わり」の一言に

濃縮しています（図）。

それを受けて松瀬青青（1869－1937）は
稲妻や 桑麻の里の 浴み時
と詠っています。



図 陶淵明詩「桑麻長びたり」（譚以文書）

2. 吐糸人

人のため、世のために尽くす人

中国の恋愛詩は晩唐の詩人李商隠（812？－858）にその極致をみるといいます。李商隠には「無題」と題する詩が16首ほどありますが、そのほとんどが恋のうたです。中でも有名なのがカイコに関わる七言律詩の「無題」、

相見ると時は難く別れるも亦た難し 東風

力なく百花残る。春蚕死に到って糸方
に尽き 蠟炬灰と成って涙始めて乾く。
暁鏡に但愁う雲鬢の改まるを、夜吟応
に覚ゆる月光の寒さ。蓬山此れより去る
こと多路無し 青鳥よ慇懃為に探り看よ

漸く会えた嬉しさにも増す別れの辛さ、春は早くも過ぎ美しかった花々はその残骸を散らし、春のカイコが繭を作る時期になりました。春蚕は人々のために糸を吐ききって死に、蠟燭は涙を流しつつ己のが身を焼いて明かりを灯し、灯しきって涙は初めて乾くといっています。私も同じで貴方のために身を尽くしきる気持ちは死ぬまで変わりません。あなたも私と同じ思いに身をやつし月の光の寒い中、私の詩を口ずさんでくれているだろうか。恋の仲立ちをしてくれると言う青い鳥よ、どうか彼女に私の思いを伝えて欲しい。と詠っています。さすが李白の大李に対して小李といわれた恋愛詩人李商隠の詩で迫力があります。

中国の新聞「人民日報」に「吐糸人」という欄があります。それは大衆のために身を尽くして奉仕活動をした人の紹介欄でした。

3. 桑蓬之志

桑蓬之志は桑弧蓬矢ともいわれ、男子が志をたてること。また天下に雄飛する志の事をいいます。

昔は男子が生まれると六組の桑木の弓と蓬（やなぎよもぎ）の矢をつくり天地四方に射ち、子の天下に雄飛するを願い祝った

故事によるといいます。出典は『礼記』中内則第十二の次の文章（意識）、

「男子が生まれれば、弧^{ゆみ}を門の左に掲げ、女子だと帨^{ぜい}（おてふき）を門の右に掲げます。3日目に子を負う儀式があり、男子の場合は負うた人に弓を射てもらいます。女子はしません。国君の世継ぎが生まれたときは、すぐに君に知らせ、君は宮廷の料理長のつくった料理をもって子に接見します。3日目は、占いで「吉」として選ばれた士が一夜潔斎し、朝服を着て朝廷に上がり寝門の外で子を受けて背負い、六つの桑の弓と蓬の矢で天地四方を射ります。終わった後は保母がその子を負います」によるとのことです。

天と地の本体を繋ぐ霊樹といわれる桑樹の神木の弓で、香りが強く菖蒲などとともに邪気を払うといわれる蓬の矢で天地四方

を射り、子供の健やかな成長を祈り、併せて大志を抱き天下に雄飛する子の将来を願う儀式が桑蓬之志の語源とのことでした。

『平家物語』巻三には中宮の皇子出産のところに、

小松殿、中宮の御方にまいらせ給いて、金銭九九文、皇子のお枕におき、天を持って父とし、地を持って母とさだめ給へ。お命は方士東方朔が齡をたもち、お心には天照大神入りかわらせ給へとて、桑の弓、蓬の矢にて、天地四方を射させ給える

があります。そうした昔の儀式にまた桑樹霊木（豆辞典 17）信仰の一端を見る思いがします。

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
子どもの晴れ着とちりめん細工展 (日本絹の里第16回企画展)	初宮詣りや食い初め式、七五三、端午の節句などの晴れ着には、魔除けや招福を意味する文様や四季の花々、子供たちの好きな玩具、人形があしらわれています。それはどれも愛らしい華やかな雰囲気をもっています。明治・大正時代に、宮参りや節句などの折りに子どもたちの無事な成長と幸福を願って作られた晴れ着に、愛らしい守り袋や布製おもちゃなどの、子どものために心を込めて作られたお細工物(ちりめん細工)を合わせて展示します。 観覧料：一般400円(320円)、大高生250円(200円) ()内は20人以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその付添1名様無料	平成21年5月23日(土)～ 7月13日(月) 午前9時30分～午後5時	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp
ヨコハマ開港とシルク展 —ヨコハマ開港150周年に あたり—	展示内容 ◇横浜開港とシルクの関わり ◇椎野正兵衛店室内着 ◇スカーフ関係資料など ◇生糸・蚕具・養蚕の写真・生糸ラベル ・養蚕教科書・蚕織錦絵・養蚕技術の古書 ◇実演：くみひも・真綿作り・手糸糸作り・ シルクの太糸指編みなど ◇体験：はた織り・糸くり シルクマジックショー 7月20日(月)・7月23日(土) 開催時間：11:00～11:30、14:00～14:30 入館料：一般500円(400円)、大高生200円(150円)、 65才以上300円(200円)小・中学生は無料()内は、 団体割引(20人以上)の料金	平成21年6月2日(火)～ 8月30日(日) 午前9時～午後4時30分 休館：毎週月曜日、7月14日 ～17日、但し7月20日 (月)開館・21日 (火)は休館	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町1 番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り駅 下車3番出口) Tel:045-641-0841 http://www.silkmuseum.or.jp/ 後援：神奈川県、横浜市経済観光 局、神奈川新聞社、NHK横浜放 送局、日本絹業協会等
第16回絹まつり	ジャパンシルクセンター恒例の夏季特別セール (多数の絹愛好家の皆さんをお待ちしています。)	平成21年度7月6日(月) ～7月8日(水) 上記3日間は 10:00～18:30 最終日 7月9日(木)は 10:00～17:00	会場：ジャパンシルクセンター 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階 主催：ジャパンシルクセンター Tel&Fax03-3215-1212
第47回特別展 「カイコの卵」 —鳥や魚の卵とくらべて みよう— (夏休みこども展)	婚礼衣装などがどのようにできるのか、元をたど ってみると、染織業者、製糸業者、養蚕農家、蚕 種業者と遡って、おおもとはカイコの卵にたどり 着きます。そこで、カイコの卵について紹介しま す。カイコの卵と鳥類の卵などとの違いを休眠性 などの点から説明し紹介する他、蚕卵の他の特徴 や蚕卵の人工ふ化法などの解説パネルなどを展示 し、カイコの卵についての理解を深めていただき ます。 観覧料：一般200円(160円)、大高生100円(80 円)、()内は20人以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの 方とその付添1名様無料	平成21年7月18日(土)～ 8月17日(月) 開館時間：9:30～17:00 休館日：毎週火曜日	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
2009 Silk Summer Seminar in Okaya 第62回製糸夏期大学	<p>製糸夏期大学は昭和23年に開催以来、毎年、全国から延べ250名余りの皆様に参集して頂きシルク関係では最大かつ最も伝統ある研修会（講演会）といわれております。 本年も多数の皆様のご参加をお待ちしております。</p> <p>【第1日目】13:30～13:40 開講のこぼ 13:40～14:40百貨店における蚕糸・絹業連携推進方策 (株)三越MD統括部呉服部 GM田口隆男氏 14:40～15:40和装の最新事情 (株)アセット婦人画報社、美しいキモノ編集副編集長 富澤輝美子氏 16:00～17:00コーディネーターからみた蚕糸・絹業連携推進事例 (株)マルシバ 社長 木下幸太郎氏 【第2日目】9:00～9:40セリシンの構造解析と素材利用 (独)農業資源生物資源研究所、絹タンパク素材開発ユニット 研究員 寺本英敏氏 9:40～10:20「いろどり繭」による新規用途開発 埼玉県農林総合研究センター 部長 近 達也氏 10:40～11:20遺伝子組換えカイコによる繭の製糸方法とその利用 (独)農業資源生物資源研究所 生活資材開発ユニット長 高林千幸氏 11:20～12:00クモ遺伝子によるスパイダーシルクの開発と製品化 (国)信州大学繊維学部 教授 中垣雅雄氏 13:00～見学会 JPマリオ→(株)宮坂製糸所→市立岡谷蚕糸博物館→イチヤマカ旧林家→岡谷駅 参加費:1,500円 教材費:1,500円 懇親会費:6,000円 見学会費:1,000円</p>	平成21年7月23日(木)～7月24日(金)	<p>会場 ジョイントプラザマリオ 長野県岡谷市長地権現町3-2-45 Tel:0266-28-8740 Fax:0266-28-8684 主催:(独)農業資源生物資源研究所 製糸技術研究会 協賛:岡谷市、蚕糸懇話会 後援:岡谷商工会議所、シルクサミット実行委員会</p> <p>事務局:(独)農業資源生物資源研究所、生活資材開発ユニット内 お問合せ・申込先 Tel:0266-22-3664 Fax:0266-22-3094 E-mail: silkseminar@nias.affrc.go.jp</p>
染・織で綾なす日本の絹展～伝統工芸から創作デザインまで～	<p>企業、染織作家、工房などの和装、洋装の純国産絹製品を中心として、これに日本の伝統文化を代表するきもの、帯などと斬新な洋装品までを一堂に展示し、その素晴らしさを紹介する。</p> <p>実演 紡ぎ、織り、真綿作り 繭見本の展示、蚕の飼育の実演</p> <p>入場無料</p>	平成21年7月28日(火)～8月3日(月)	<p>会場:東京・日本橋高島屋 8階ギャラリー 主催:(社)日本絹業協会 後援:(財)大日本蚕糸会 (社)日本絹人織織物工業会 (財)伝統的工芸品産業振興協会</p>
片倉シルク記念館での開催イベント	<p>同記念館は、片倉工業最後の製糸工場(熊谷)の繭倉庫を利用したものであり、同社の製糸業121年の歴史を末永く保存継承するため、熊谷工場の操業当時の製糸機械を展示し繭から生糸になるまでの過程の紹介をするとともに「繭クラフト講習会」等のイベントを開催しています。 入場料:無料(繭クラフト講習会は別途参加費必要)</p> <p>○夏休みイベント「蚕と繭展」 8月1日(土)～8月31日(月)10:00～17:00(火曜日休館) ●蚕の飼育・雌雄の見分け方 ●座繰器・機織り機の実習 ●繭を使って自由工作 ●養蚕写真の展示</p>	<p>通常開館時間:10:00～17:00(休館日:火曜日)</p> <p>①真綿作り講習会(無料) 8月2日(日)10:00～15:00 ②フルート演奏会(無料) 8月8日(土)14:00～15:00 ③蚕と繭のお話(無料) 8月9日(日)14:00～ ④繭クラフト講習会(実費) 8月23日(日)10:00～15:00</p>	<p>会場:片倉シルク記念館 埼玉県熊谷市本石2丁目135番 Tel:048-522-4316</p> <p>交通:JR熊谷駅から徒歩15分、タクシー5分。車の場合、関越自動車道の花園ICから約20分</p>
親子ふれあいシルクサマーセミナーinおかや2009	<p>シルクの利用拡大を図るためには、次の世代を担う子供達にカイコやシルクについて良く理解してもらうことが重要であり、講義(お話)、工場などの見学織りなどの実技体験を通してカイコの不思議・シルクの魅力を親子で体験してもらいます。 対象:小学校高学年(4～6年生)親子14組 参加費:無料(ただし、交通費、宿泊費、食費等は各自負担) テキスト:無料</p>	平成21年8月3日(月)13:00～8月5日(水)12:00まで	<p>会場:(独)農業資源生物資源研究所、生活資材開発ユニット及び岡谷市内施設</p> <p>主催:(独)農業資源生物資源研究所及び岡谷市 申込先:Fax0266-22-3094 E-mail:ctaka@affrc.go.jp 問合せ先:高林千幸Tel:0266-22-3664または上記メール</p>

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成 21 年 5 月 16 日現在

登録番号	氏名	所属・役職名
20-067	秋山 眞和	綾の手紬染織工房主宰
20-052	旭 利彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-013	阿部 末男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
21-003	天野 三吉	富士吉田織物協同組合開発部長
20-006	石田 克己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-019	伊藤 公一	株式会社伊と幸代表取締役社長
19-014	今村 幸文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
20-059	宇野 浩嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
20-041	梅田 幸平	有限会社幸和代表取締役
19-010	遠田 寿之	松岡株式会社監査役
20-048	大野 章	勝山織物株式会社
20-042	大嶋 啓子	株式会社 AWA - S 取締役
20-063	大竹 史朗	有限会社大竹商店代表取締役
21-001	岡田 心平	株式会社あきやま常務取締役
21-007	小倉 進吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ21研究会代表
21-005	小山田 勉	株式会社オヤマダ代表取締役社長
20-037	角谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
19-005	筧 文平	全国農業協同組合連合会副審査役
21-004	柏木 幹弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-035	片山 政明	山形県養蚕産地推進員
20-049	勝山 健史	勝山織物株式会社専務取締役
20-064	加藤 洋次	株式会社加藤技術士事務所所長
19-021	門倉 重行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
20-030	金井 史郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
20-025	亀井 修一	株式会社伊と幸営業部
19-022	川瀬 久弥	樋口株式会社工場長
20-020	北川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
20-009	草間 健一	株式会社草間商会代表取締役
20-066	黒田 秀樹	株式会社伊と幸装部次長
19-013	小板橋 広行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小口 和興	株式会社帛撰代表取締役
21-002	小林 嘉朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-002	薦田 智昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-012	昆野 和夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京子	多摩シルクライフ21研究会
20-074	佐々木 祥一	株式会社川島織物セルコン
20-001	笹口 晴美	有限会社ミラノリブ代表取締役

(注) 標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏名	所属・役職名
19-012	佐藤 信行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐藤 幸香	「香染」工房主宰
19-011	渋谷 健治	松岡株式会社シルク事業部課長
19-001	島田 俊弘	中央蚕糸協会顧問
19-006	清水 重人	(財) 大日本蚕糸会蚕糸科学研究所上席研究員
20-040	清水 武彦	(有) シンセイ (信州繭ブランド織物振興会会長)
19-008	代田 丈志	(財) 大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
20-018	都木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
19-017	高橋 耕一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
20-075	高橋 弘直	大門屋店主
20-071	竹下 和利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田中 裕司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
19-007	田中 幸夫	(財) 大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
20-014	俵 武司	株式会社千總友仙工場代表取締役
20-005	土井 芳文	絹小沢株式会社業務推進役
19-004	道鎮 孝雄	(社) 日本絹業協会事業部長
21-008	道明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂本 正	田中種株式会社営業部長
20-053	内藤 吉雄	元艶金興業株式会社
20-058	永岩 則子	長崎絹業探究所所長
19-003	中尾 敏明	(社) 日本生糸問屋協会専務理事
20-060	中尾 浩祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
20-072	中島 洋一	玉川大学非常勤講師
20-057	中野 豊	長崎絹業探究所製作担当
20-031	中谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-016	西尾 仁志	有限会社西尾呉服店代表取締役
20-003	西澤 厚男	中央蚕糸協会専務理事
19-002	西 文秀	(社) 日本絹業協会専務理事
20-024	野中 康雄	株式会社伊と幸和装部次長
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-018	服部 芳和	有限会社織道楽塩野屋代表
20-056	林 太一	昭和撚糸工業株式会社
20-038	原田 晶三	アンファンテリブル代表
20-015	原田 尹文	有限会社ハラダ代表取締役
20-027	東 宣江	群馬県蚕糸館主宰
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深田 祥二	株式会社深田商店専務取締役
20-039	福田 隆	株式会社龍工房代表取締役

登録番号	氏名	所属・役職名
20-050	福地圭一	丸八生糸株式会社
19-023	福永吉穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤井浩一	藤井絞株式会社取締役部長
20-069	藤井美登利	川越むかし工房代表
20-011	星野伸男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-055	堀内新也	農業、地域（繭）マイスター
20-051	舞鶴一雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
20-054	前田勝臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-010	前田進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松井慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松澤清典	松澤製糸所
20-033	松本信孝	有限会社ハック代表取締役
19-016	宮坂照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-026	宮沢巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-022	宮忠光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-021	本橋伸夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-070	藪内猛之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-078	藪垣茂仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山口治之	丹波生糸株式会社代表取締役
20-017	山根敏男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-062	吉川幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-073	渡辺健次	渡文株式会社代表取締役専務
20-029	渡邊英夫	橋本レース株式会社

純国産絹マーク使用許諾者一覧

純国産絹マーク使用許諾者一覧

平成 21 年 5 月 22 日現在

No.	企 業 名	同左代表者名	
1	株式会社千總	代表取締役	西村 總左衛門
2	株式会社織匠田歌	代表取締役	曾根 武勇
3	有限会社ミラノリブ	代表取締役	笹口 晴美
4	株式会社丸上	代表取締役社長	上達 征次
5	株式会社坂本屋	代表取締役	飯塚 久二
6	有限会社平原	代表取締役	平原 隆志
7	株式会社信盛堂	代表取締役	神部 健一
8	株式会社きものアイ	代表取締役	吉澤 政敏
9	株式会社上庵	代表取締役	川内 俊秀
10	有限会社樹	代表取締役	須藤 勲
11	株式会社銀座もとじ	代表取締役	泉二 弘明
12	河瀬満織物株式会社	代表取締役社長	河瀬 仁志
13	有限会社織匠小平	代表取締役社長	小平 真滋郎
14	門倉メリヤス株式会社	代表取締役	門倉 重行
15	株式会社結華	代表取締役	橋本 順一
16	有限会社絹回廊	代表取締役	糸井 敬之
17	有限会社琴路屋	代表取締役	北山 充伯
18	有限会社大善屋呉服店	代表取締役	畑 恒夫
19	丸善本店		櫛田 幸造
20	呉服のささき		佐々木 孝一
21	日本蚕糸絹業開発協同組合（絹小沢株式会社）	代表理事	小林 幸夫
22	宮階織物株式会社	代表取締役社長	宮階 有二
23	21世紀の絹を考える会	代表世話人	石田 克己
24	碓氷製糸農業協同組合	代表理事組合長	高村 育也
25	丸幸織物有限会社	代表取締役	谷口 惣一郎
26	織匠 万勝		前田 章
27	有限会社織道楽塩野屋	代表取締役	服部 芳和
28	株式会社丸万中尾	代表取締役社長	中尾 禧夫
29	株式会社むらかね	代表取締役	村井 謙一
30	株式会社高島屋	代表取締役	鈴木 弘治

No.	企 業 名	同左代表者名
31	株式会社さが美	代表取締役社長 小野山 晴夫
32	有限会社まるけい	代表取締役 高井 友樹
33	有限会社特選呉服専門店後藤	代表取締役 後藤 義昭
34	株式会社小いけ	代表取締役 小池 泰弘
35	株式会社伊と幸	代表取締役社長 伊藤 公一
36	株式会社四季のきものおおにし	代表取締役 大西 嘉夫
37	株式会社和幸	代表取締役 高澤 みゆき
38	株式会社榎屋高尾	代表取締役 高尾 弘
39	株式会社つるや	代表取締役 金子 憲二
40	株式会社越後屋	代表取締役 越永 高士
41	株式会社小倉商店	代表取締役 小倉 敏行
42	柳染織工房	柳 崇
43	染織家	児玉 京子
44	草木染工房山村	山村 多栄子
45	手織り よおん	長嶺 亨子
46	祝嶺染織研究所	祝嶺 恭子
47	株式会社龍工房	代表取締役 福田 隆
48	からん工房	深石 美穂
49	たわた工房	多和田 淑子
50	山音株式会社	代表取締役社長 山田 純司
51	やまと株式会社	代表取締役 村田 市太郎
52	株式会社御菌織物	代表取締役 加藤 賢一
53	桜井株式会社	代表取締役 桜井 実
54	有栖川織物有限会社	代表取締役 澤井 正弘
55	太田和株式会社	代表取締役 太田 馨
56	株式会社岩田	代表取締役 村田 知之
57	有限会社神原呉服店	代表取締役 神原 和久
58	浅山織物株式会社	代表取締役 浅山 寿栄男
59	株式会社やまと	取締役社長 矢嶋 孝敏
60	田中種株式会社	代表取締役社長 田中 隆
61	株式会社京扇	代表取締役 鈴木 康裕
62	株式会社なごみや	代表取締役 松本 成央
63	丸池藤井株式会社	代表取締役 藤井 博夫
64	久保商事株式会社	代表取締役 久保 善昭
65	加賀グンゼ株式会社	代表取締役 松井 慎一郎
66	千切屋株式会社	代表取締役 熊谷 喜治

蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹系紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.taafs.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【取引所】

東京穀物商品取引所
関西商品取引所

<http://www.tge.or.jp/japanese/index.shtml>
<http://www.kanex.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科

<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科

<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工芸学部応用生物学課程

<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学

<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部

<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座

http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室

<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻

http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース

<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科

<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所

<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター

<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター

<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【博物館】

(財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	46
(2) 養蚕業の概要	47
(3) 養蚕農家数の推移	48
(4) 収繭量の推移	49
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2008年）	50
(6) 蚕品種別蚕種製造数量（2008年）	51
(7) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	52
(8) 生糸生産数量の推移	53
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	54
(10) 生糸相場及び国内生糸価格実態	55
(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	57
(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	58
(13) 製糸工場の原料繭需給	59
(14) 器械製糸工場の操業状況	60
(15) 生糸在庫数量の内訳	61
(16) 蚕糸関係品目別輸入状況	62
(17) 生糸原産国別輸入状況	63
(18) 絹糸原産国別輸入状況	64
(19) 織物生産状況	65
(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産状況	66
(21) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	67
(22) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	68

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	69
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	70
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	71
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	72
(5) 中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況	73
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	74
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	75

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次 (暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,466
20年 2008	1,021	382	374	1.6	2	80	38.1	13,913
前年対比 (%)	87.3	88.2	101.1	88.9	100.0	96.4	95.3	90.0

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。

・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
年次 Year	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07(%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比(%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕 農家数	桑使用 面積	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば ・ ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば ・ ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,654	7,126
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008 - 2	135	787	—	1,487	7,314	1,769	18	770	670
3	153	1,459	—	1,415	7,511	1,689	33	865	685
4	160	505	—	3,444	4,732	2,220	45	1,107	644
5	155	3,574	—	3,180	5,281	2,067	73	1,068	577
6	136	1,362	—	1,603	5,176	2,087	109	1,150	608
7	137	1,517	—	1,527	5,303	2,459	26	1,147	541
8	119	1,129	—	1,231	5,320	2,311	20	916	514
9	115	1,134	—	1,185	5,384	1,979	15	941	590
10	122	1,280	—	1,823	4,963	1,451	57	885	670
11	108	682	—	967	4,786	1,518	53	809	686
12	118	684	—	1,004	4,584	1,065	9	706	525
2009 - 1	101	1,004	—	1,115	4,574	1,281	5	1,090	400
2	109	516	—	989	4,210	801	6	401	581
3	111	921	—	880	4,362	1,213	19	680	591
08.6~09.3	1,176	10,229	—	12,324	4,362	16,165	319	8,725	5,706
07.6~08.3	1,447	11,485	—	13,662	7,511	18,649	315	10,080	5,993

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量 + (A) + (B)} - {(C) + (E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸生産数量の推移

Production of Raw Silk

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生糸及び玉糸 Raw Silk and Doupion Silk					繭品質評価機関 Cocoon Quality Grading Stations
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸 Domestic Raw Silk Reelers	及び &	器械玉糸 Machine Reeling Mills	
年月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2002	6,521	5,617		904		・
2003	4,791	4,000		791		・
2004	4,387	3,634		753		・
2005	2,508	1,735		773		・
2006	1,956	1,417		539		・
2007	1,747	1,227		520		・
2008	1,588	1,193		395		・
生糸年度 Silk Year						
2002	5,953	5,128		825		・
2003	4,517	3,735		782		・
2004	3,868	3,110		758		・
2005	2,024	1,329		695		・
2006	1,794	1,285		509		・
2007	1,762	1,231		531		・
2008 - 2	135	91		44		・
3	153	105		48		・
4	160	115		45		・
5	155	112		43		・
6	136	106		30		・
7	137	108		29		・
8	119	91		28		・
9	115	91		24		・
10	122	99		23		・
11	108	86		22		・
12	118	98		20		・
2009 - 1	101	83		18		・
2	109	89		20		・
3	111	92		19		・
08.6~09.3	1,176	943		233		・
07.6~08.3	1,447	1,004		443		・

資料：農林水産省生産局調査。

備考：1. 生糸年度は6月から翌年5月までである。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：1. Silk year ranges from June to May of the following year.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2002	6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
生糸年度 Silk Year						
2002	5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008 — 2	135	4	31	10	33	57
3	153	—	29	29	47	46
4	160	—	35	35	36	53
5	155	—	21	40	38	56
6	136	—	19	44	33	40
7	137	—	22	40	26	49
8	119	—	17	36	20	47
9	115	—	25	35	30	25
10	122	—	33	36	25	28
11	108	—	20	40	20	28
12	118	—	23	50	20	24
2009 - 1	101	1	23	34	28	16
2	109	—	29	33	20	28
3	111	—	31	42	14	24

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10)生糸相場及び国産生糸価格実態

Raw Silk Quotations and Japanese Raw Silk Actual Condition Price

1 東京穀物商品取引所(生糸先物取引)

The Tokyo Grain Exchange (Raw Silk Futures Trading)

(1) 商況 State of Market

4月：月初1日は、見送られて値付けバイカイで始まり、4月限2,443円が月中の最高値段、5月限以降2,306円が月中の最低値段となった。その後もバイカイに始終した。24日の当月限納会は前日と同値の2,443円と平穏に納まり、受渡数量は無しとなった。27日の新甫10月限は同鞘の2,306円で発会して今月を終わった。

5月：月初から月末まで見送り気分強く2,306円のバイカイに終始した。

(2) 先物約定値段 Monthly Prices of Futures Contracts Traded

単位：円/kg

	限月	始値	高値 (日)	安値 (日)	終値
4月中	4月限	2,443	2,443 (1)	2,443 (1)	2,443
	5月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	6月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	7月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	8.月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	9月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	10月限	2,306	2,306 (27)	2,306 (27)	2,306

	限月	始値	高値 (日)	安値 (日)	終値
5月中	5月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	6月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	7月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	8.月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	9月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	10月限	2,306	2,306 (1)	2,306 (1)	2,306
	11月限	2,306	2,306 (27)	2,306 (27)	2,306

(3) 出来高合計及び一日平均出来高 Total Trading Volume and Daily Average Volume

単位：枚/60kg

	出来高合計	一日平均
4月中	251	12
5月中	215	12

(4) 受渡高 Delivery

単位：枚／300 kg

	早受渡	期日受渡	計
4月中	0	0	0
5月中	0	0	0

2 現物標準値の推移 Standard Price of Raw Silk

単位：円/kg

	東京市場 Tokyo Market		
	最高 High	最低 Low	平均 Average
平成 21 年 4 月	2,440	2,330	2,429
5 月	2,310	2,310	2,310

資料:(社)日本生糸問屋協会 Source:Japan Raw Silk Dealers Association

3 国産生糸価格実態 Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円/kg

織度 Size	21d	27d	31d
平成 20 年 1 月	4,579	3,813	3,504
2 月	4,226	3,630	3,532
3 月	3,997	3,565	3,445
4 月	4,373	3,625	3,459
5 月	4,059	3,750	3,431
6 月	4,325	3,761	3,479
7 月	4,173	3,795	3,577
8 月	4,481	3,741	3,499
9 月	4,386	3,794	3,540
10 月	4,363	3,885	3,539
11 月	4,140	3,809	3,461
12 月	4,087	3,883	3,403
平成 21 年 1 月	4,209	3,652	3,374
2 月	4,020	3,695	3,380
3 月	4,160	3,655	3,139

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(11) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計 ③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
対前年比 2007/06 (%)	87.7	91.7	100.0	86.3	65.0	59.4	87.5	93.6	86.4	95.5	—	100.0	90.0	200.0	85.5	92.2

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year					2007	前年比% y/y	構成比% ratio
		2003	2004	2005	2006	2007			
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	105.4	2.4	
	女子用外衣類 Women's upper garments	52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	88.3	31.1	
	うちブラウス Blouse of the inside	3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	85.7	1.9	
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	38.6	1.4	
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	99.3	9.3	
	ハンカチ Handkerchief	0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	50.0	0.3	
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	111.1	1.9	
	ネクタイ類 Ties	26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	100.9	13.4	
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting	18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	114.6	13.2	
	その他の洋装類 Other western clothes	24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	96.6	15.8	
洋装類計 Western clothes subtotal	14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	94.7	88.8		
和装類計 Japanese clothes subtotal	12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	84.2	9.6		
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	80.6	8.0		
その他 Others	1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	100.0	1.6		
合計 Total	161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	93.7	100.0		

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(13) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total			うち 器 械 製 糸 工 場 Machine Reeling Mills		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year							
2002		1,559	2,150	775	1,366	1,822	708
2003		1,598	1,612	761	1,302	1,330	679
2004		1,291	1,500	553	1,039	1,228	489
2005		866	830	589	540	552	478
2006		600	646	541	405	445	436
2007		548	581	505	345	390	391
2008		393	518	379	296	374	311
生糸年度 Silk Year							
2002		1,921	1,972	525	1,764	1,674	480
2003		1,477	1,554	448	1,162	1,273	368
2004		1,056	1,280	224	794	1,008	154
2005		839	673	390	531	419	266
2006		562	599	349	405	410	260
2007		502	583	266	344	388	215
2008 —	2	△ 2	44	416	△ 2	28	332
	3	△ 8	52	356	△ 9	34	288
	4	14	51	319	0	35	253
	5	1	52	266	△ 1	36	215
	6	49	44	272	9	33	191
	7	117	45	343	104	34	260
	8	54	39	359	53	29	284
	9	28	37	350	27	28	283
	10	82	38	417	80	30	333
	11	60	36	486	36	28	342
	12	△ 1	37	379	△ 1	30	311
2009 —	1	4	34	354	0	27	283
	2	△ 2	36	320	△ 2	29	253
	3	10	39	291	0	31	222

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion silk producers.

(14) 器械製糸工場の操業状況

Activities of Machine Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
曆 年 Calendar Year							
	2002	7	607	414	68	290	207
	2003	6	444	285	64	290	173
	2004	5	426	262	62	292	165
	2005	2	203	126	62	269	83
	2006	2	114	94	82	266	59
	2007	2	112	93	83	266	57
	2008	2	112	90	80	266	54
	2007 — 2	2	112	93	83	21	60
	3	2	112	94	84	23	60
	4	2	112	93	83	23	56
	5	2	112	94	84	22	55
	6	2	112	92	82	23	55
	7	2	112	89	79	23	55
	8	2	112	92	82	21	55
	9	2	112	89	79	22	56
	10	2	112	92	82	24	60
	11	2	112	96	86	22	58
	12	2	112	94	84	22	57
	2008 — 1	2	112	95	85	20	58
	2	2	112	94	84	22	57
	3	2	112	96	86	22	58
	4	2	112	100	89	23	60
	5	2	112	100	89	22	60
	6	2	112	95	85	23	60
	7	2	112	92	82	23	60
	8	2	112	91	81	21	56
	9	2	112	84	75	23	55
	10	2	112	87	78	24	55
	11	2	112	94	84	21	52
	12	2	112	90	80	22	54
	2009 — 1	2	112	91	81	20	50
	2	2	118	89	75	21	54
	3	2	118	90	76	22	54

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(15) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
年 月 Year & Month	Grand Total	Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	Accepts	Deliveries	Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008 — 2	7,314	7,314	327	10	6,607	370	787	787	—
3	7,511	7,511	321	15	6,774	401	1,459	1,459	—
4	4,732	4,732	310	15	3,664	743			
5	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
6	5,176	5,176	299	15	4,100	762			
7	5,303	5,303	312	20	4,245	726			
8	5,320	5,320	310	15	4,126	869			
9	5,384	5,384	302	15	4,179	888			
10	4,963	4,963	312	15	3,799	837			
11	4,786	4,786	296	15	3,687	788			
12	4,584	4,584	310	15	3,536	723			
2009 — 1	4,574	4,574	322	15	3,461	776			
2	4,210	4,210	329	10	3,261	610			
3	4,362	4,362	333	10	3,366	653			

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(16)蚕糸関係品目別輸入状況(平成16年～21年3月)
 Breakdown of Silk-Related Products Imports (2004～Mar 2009)

	単位 Unit	平成21年(2009)		平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	20年/19年 2008/07 (%)
		(3月) Mar	(累計) Accumula ted Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	921	2,441	15,242	12,858	21,148	22,915	25,419	118.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,213	3,295	22,636	19,439	31,524	32,699	29,745	116.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	34	34	317	333	430	520	934	95.2
繭 Cocoon	kg	4,000	8,000	4,000	13,750	18,565	16,300	203,604	14.0
真綿 Floss Silk	kg	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	25,320	101.4
ペニ Peigne	kg	7,289	12,837	2,770	6,336	19,760	15,068	14,952	43.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	2,685	2,685	23,770	17,184	1,020	3,650	6,797	138.3
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	293,373	83.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	4,056	36,170	193,125	238,507	255,951	319,072	267,341	81.0
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	14,030	51,692	450,956	532,769	545,801	878,398	607,783	84.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	34,243	95,269	526,662	608,270	756,065	847,200	781,454	86.6
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	5,836	24,440	143,585	117,265	208,913	202,901	244,557	122.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	729,545	2,243,704	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	13,127,009	101.6

資料：財務省関税局
 Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(17) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year							
2006		21,148 (174)	14,740 (101)	6,181 (68)	5 (5)	222 (-)	-
2007		12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
生糸年度 Silk Year							
2006		13,460 (166)	8,385 (119)	4,454 (42)	5 (5)	174 (-)	-
2007		16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-
2007	-	3	713 (5)	336 (5)	377	-	-
		4	896 (11)	686 (9)	209 (2)	-	-
		5	877 (20)	712 (15)	161 (5)	4	-
		6	1,191	878	313	-	-
		7	798 (2)	619	179 (2)	-	-
		8	1,253 (10)	947 (5)	272 (5)	34	-
		9	1,289 (23)	933 (23)	308	48	-
		10	1,890 (5)	1,005	863 (5)	22	-
		11	1,443 (5)	1,109 (5)	307	27	-
		12	868 (21)	623 (21)	220	25	-
2008	-	1	1,041 (8)	824	213 (8)	4	-
		2	849 (5)	580 (5)	267	2	-
		3	1,484 (14)	1,036 (10)	448 (4)	-	-
		4	505	314	191	-	-
		5	3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	6	-
		6	1,362 (5)	1,128	233 (5)	1	-
		7	1,517 (21)	1,090 (21)	407	20	-
		8	1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	18	-
		9	1,135 (21)	906 (21)	212	17	-
		10	1,280	913	347	20	-
		11	682 (5)	512	151 (5)	20	-
		12	684 (10)	397 (10)	272	14	-
2009	-	1	1,004	693	309	2	-
		2	516	195	321	-	-
		3	921 (7)	820 (7)	97	5	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(18) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2005		32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
生糸年度 Silk Year									
2005		36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2007	—								
	4	1,317	21	783	398	1	—	116	—
	5	1,667	—	1,119	267	0	—	280	—
	6	1,711	—	1,134	409	4	—	164	—
	7	1,872	—	1,153	487	1	—	231	—
	8	1,775	—	1,154	466	1	—	154	0
	9	1,935	—	1,239	520	—	—	176	—
	10	2,222	—	1,224	638	1	—	358	—
	11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
	12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008	—								
	1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
	2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
	3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
	4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
	5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
	6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
	7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
	8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
	9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
	10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
	11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
	12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
2009	—								
	1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
	2	801	—	253	463	—	—	65	19
	3	1,213	—	734	300	3	—	176	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(19) 織物生産数量
Fabric Production

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq. meters.)

年月 Year & Month	項目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維 織物 Synthetic Fiber Fabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose staple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦年 Calendar Year										
	2002	2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
	2003	2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
	2004	1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
	2005	1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
	2006	1,736,816	399,697	17,122	1,384	1,082,896	64,509	95,783	70,817	4,608
	2007	1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
	2008	1,553,767	326,954	12,791	1,252	1,008,457	60,582	79,928	60,712	3,091
2007 —	4	143,211	31,386	1,241	95	91,268	5,240	7,960	5,640	382
	5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
2008 —	1	133,067	26,568	994	107	89,112	5,070	6,129	4,759	330
	2	139,973	28,262	1,198	102	92,685	5,468	7,220	4,813	226
	3	141,922	28,510	1,178	103	94,709	5,520	6,804	4,890	208
	4	139,796	28,146	1,097	103	92,890	5,553	6,518	5,135	354
	5	130,923	27,563	1,110	101	84,940	5,252	6,587	5,128	253
	6	132,067	27,370	1,159	104	85,408	5,300	6,916	5,602	207
	7	127,748	27,577	1,085	99	81,040	5,341	6,766	5,613	227
	8	118,610	25,975	931	97	75,181	4,668	6,393	5,186	179
	9	124,690	26,194	1,031	125	81,707	4,696	6,507	5,249	182
	10	125,446	27,066	1,010	113	80,493	4,709	6,675	5,149	232
	11	121,721	26,754	1,025	102	77,375	4,609	6,749	4,843	263
	12	117,803	26,970	982	96	73,917	4,397	6,663	4,347	430
2009 —	1	104,401	23,096	729	87	67,408	3,916	5,247	3,667	251
	2	99,387	21,064	879	85	63,883	3,647	6,116	3,550	164
	3	93,091	19,946	847	85	60,655	2,653	5,577	3,187	141

資料：経済産業省調査。

備考：交織を含む。

Source：The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks：Mixed fabrics included.

(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000m²)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
1997	52,031	19,104	9,311	5,764	4,029	20,614	15,998	4,616	12,313
1998	38,673	14,507	7,124	3,963	3,420	15,940	11,792	4,149	8,225
1999	33,425	11,032	5,360	2,877	2,796	15,745	11,562	4,182	6,649
2000	32,275	11,192	5,556	3,410	2,226	14,028	10,010	4,018	7,054
2001	29,801	10,933	5,518	3,365	2,049	12,664	8,842	3,822	6,205
2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2008	13,661	4,781	2,061	1,419	1,301	6,800	4,170	2,631	2,080
2007 — 4	1,317	443	198	125	120	664	409	256	210
5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 — 1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
10	1,084	385	149	123	114	538	322	216	161
11	1,094	403	158	128	117	542	343	199	149
12	1,049	391	155	124	112	524	325	199	135
2009 — 1	790	283	109	92	83	395	209	186	111
2	939	307	104	104	99	503	317	186	128
3	911	298	108	90	99	491	295	197	122

資 料：経済産業省調査。

備 考：単位以下四捨五入。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(21) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年 月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	13,661	90.0	656,889	92.2	88,401	90.9	867,559	88.7
2007 — 2	1,312	80.0	65,785	72.5	8,987	64.5	108,331	173.5
3	1,329	78.0	58,873	64.9	9,660	68.0	80,785	150.1
4	1,317	79.2	62,535	70.1	8,840	63.1	84,654	142.4
5	1,225	79.6	50,444	66.2	7,760	56.3	71,255	139.4
6	1,354	82.4	69,024	77.2	7,169	70.0	84,513	180.8
7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,084	85.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,094	84.3	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,049	82.3	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	790	73.8	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	939	74.0	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	911	73.4	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4			43,957	76.6	6,766	85.0		

資 料：「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(22)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
年月 Year & Month												
暦年Calendar Year												
2003	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2007 - 7	291,632	▲ 0.1	13,234	▲ 3.0	391	▲ 14.7	4,692	▲ 0.5	3,341	▲ 6.7	1,231	▲ 9.8
8	296,035	1.6	9,965	0.7	516	109.3	3,166	▲ 10.0	2,284	▲ 5.8	1,021	▲ 2.4
9	281,448	3.2	9,858	▲ 4.0	199	▲ 31.0	3,579	▲ 4.0	2,125	▲ 7.0	986	3.0
10	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008 - 1	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing & footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts & sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産高

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2001年	2002年	2003年
日本	Japan	1,031 トン	880 トン	780 トン
中国	China	512,708	545,497	480,774
インド	India	140,000	128,000	117,000
ベトナム	Vietnam	22,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,916	10,238	9,966
タイ	Thailand	3,473	3,473	10,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	5,000	3,500	3,200
インドネシア	Indonesia	749	691	
トルコ	Turkey	47	100	169
ブルガリア	Bulgaria	52	50	0.3
ギリシャ	Greece	40	60	60
フィリピン	Philippines	17	28	23
主要国の計	Total	715,033	733,517	663,472

区 分		2004年	2005年	2006年
日本	Japan	683 トン	626 トン	505 トン
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turkey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
主要国の計	Total	730,910	809,722	934,902

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド織維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産高

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区分		2001年		2002年		2003年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	431	7,200	391	6,500	287	4,800
中国	China	62,560	1,042,700	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100
インド	India	15,842	264,000	14,617	243,600	13,970	232,800
ベトナム	Vietnam	2,000	33,300	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,484	24,700	1,607	26,800	1,563	26,100
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,500	2,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	770	12,800	630	10,500	500	8,300
インドネシア	Indonesia	110	1,800	91	1,500		
トルコ	Turkey	7	100	17	300	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	7	100	0	0
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	3	100	3	100
主要国の計	Total	85,816	1,430,100	95,802	1,596,700	104,968	1,727,100

区分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600		
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turkey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
主要国の計	Total	101,935	1,699,100	109,848	1,830,800	115,602	1,926,900

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in Chi

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha、%)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	3,913	5,602	143	196	175	89
上 海	Shanghai	0.03	-	-	408	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	100,539	117,800	117	18,580	20,186	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	74,838	85,122	114	20,530	19,051	93
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	33,900	37,596	111	3,890	4,038	104
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	10,577	12,110	114	1,650	1,676	102
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	36,845	39,700	108	6,800	6,253	92
河 南	Henan	2.20	2.73	124	8,600	13,390	156	300	318	106
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	13,583	15,706	116	650	536	83
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	3,663	4,100	112	45	50	111
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	34,300	68,750	200	1,100	1,138	103
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	148,460	185,000	125	6,600	8,020	122
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	31,000	23,828	77	6,500	6,490	100
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,500	77,800	100	17,510	21,914	125
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,199	1,254	105	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	20,095	31,477	157	1,550	1,335	86
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	20,272	18,498	91	1,775	1,657	93
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	537	613	114	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	413	475	115	30	59	197
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	819	895	109	55	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	-	208	-
合 計	Total	76.20	85.57	112	621,461	739,715	119	87,761	93,105	106

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2005	2006	前年比 2006/05
702	710	101

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1995年～2006年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	前年比 06/05(%)
北 京	Beijing													
天 津	TianJin													
河 北	Hebei	0.1	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				
山 西	Shanxi	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	150.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai	0.3									0.0	0.0		
江 蘇	Jiangsu	18.6	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	116.8
浙 江	Zhejiang	12.2	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	113.3
安 徽	Anhui	4.0	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	111.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	1.6	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	109.1
山 東	Shandong	5.0	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	108.1
河 南	Henan	1.8	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	144.4
湖 北	Hubei	2.2	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	114.3
湖 南	Hunan	0.3	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	3.3	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	202.9
広 西	Guangxi	2.1	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	125.0
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing				2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	77.4
四 川	Sichuan	20.3	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	100.0
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	100.0
雲 南	Yunnan	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	155.0
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.8	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	90.0
甘 肅	Gansu										0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia										0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
合 計	Total	76.0	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	118.8

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5)中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2008年1月~12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	8,376,916	95.61	198,655	95.74
2 ルーマニア	Romania	1,122,194	229.25	30,163	247.36
3 イタリア	Italy	829,113	84.23	23,391	89.00
4 日本	Japan	662,460	85.26	19,222	89.26
5 ベトナム	Vietnam	628,784	130.28	16,504	137.62
6 韓国	South Korea	561,080	62.02	14,868	61.67
7 パキスタン	Pakistan	246,913	93.97	5,794	92.99
8 バングラデッシュ	Bangladesh	193,213	83.00	4,502	82.55
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	67.92	3,735	67.63
10 タイ	Thailand	77,128	99.45	2,000	96.87
11 その他	Others	578,870	104.72	14,901	104.65
合計	Total	13,431,394	97.66	333,735	99.00

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 イタリア	Italy	916,759	132.94	28,804	137.47
2 日本	Japan	627,903	140.56	20,108	143.90
3 インド	India	542,905	113.77	14,939	117.53
4 パキスタン	Pakistan	416,968	112.40	11,742	114.35
5 ドイツ	Germany	395,690	79.76	13,803	80.10
6 タイ	Thailand	211,670	174.92	6,409	180.18
7 トルコ	Turkey	63,941	148.93	2,429	140.48
8 インドネシア	Indonesia	48,415	137.44	1,315	145.49
9 韓国	South Korea	43,601	37.36	1,485	39.64
10 香港	Hong Kong	30,381	828.27	0,960	791.71
11 その他	Others	107,761	62.71	3,921	96.88
合計	Total	3,405,994	114.36	105,915	116.44

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics (>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	58,533,788	79.44	139,041	79.72
2 イタリア	Italy	44,916,778	138.52	144,278	131.10
3 香港	Hong Kong	27,767,378	94.40	122,817	97.18
4 パキスタン	Pakistan	20,415,584	99.70	41,814	99.23
5 韓国	South Korea	20,317,354	97.82	79,553	102.23
6 日本	Japan	13,594,742	99.07	37,482	103.06
7 アメリカ	United States	8,349,317	88.03	48,281	86.79
8 シンガポール	Singapore	7,180,679	93.89	19,236	79.86
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,901,548	124.54	22,457	70.65
10 マレーシア	Malaysia	6,756,442	186.33	23,028	200.41
11 その他	Others	34,603,876	121.03	125,775	120.81
合計	Total	249,337,487	101.22	803,762	104.13

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月~3月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	1,537,875	72.57	33,346	71.29
2 ルーマニア	Romania	90,971	30.26	2,308	31.47
3 イタリア	Italy	85,174	32.92	2,385	34.70
4 日本	Japan	68,695	30.75	1,758	28.79
5 韓国	South Korea	64,003	35.23	1,607	36.28
6 シンガポール	Singapore	51,831	346.90	1,110	341.72
7 パキスタン	Pakistan	38,434	89.52	0,816	84.18
8 バングラデッシュ	Bangladesh	37,789	62.91	0,824	62.58
9 ベトナム	Vietnam	30,914	15.67	0,729	14.80
10 タイ	Thailand	18,899	112.71	0,496	119.82
11 その他	Others	59,208	37.37	1,428	37.76
合計	Total	2,083,793	58.30	46,807	56.22

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	535,992	456.77	12,946	435.91
2 イタリア	Italy	145,048	51.08	4,261	49.21
3 パキスタン	Pakistan	132,021	170.24	3,369	164.95
4 日本	Japan	101,333	70.97	3,013	70.67
5 ドイツ	Germany	81,775	86.16	2,728	84.14
6 タイ	Thailand	28,526	49.65	0,812	50.74
7 韓国	South Korea	21,495	501.75	0,578	408.06
8 ベトナム	Vietnam	14,426	905.02	0,372	519.04
9 トルコ	Turkey	11,973	66.91	0,481	71.79
10 ルーマニア	Romania	9,727	—	0,260	—
11 その他	Others	25,060	65.84	0,666	55.04
合計	Total	1,107,376	67.58	29,486	81.44

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	12,364,610	124.76	27,925	132.76
2 イタリア	Italy	8,799,496	80.24	26,208	76.57
3 パキスタン	Pakistan	7,241,699	207.62	13,655	186.03
4 香港	Hong Kong	4,226,917	75.91	18,619	77.67
5 韓国	South Korea	3,604,254	76.06	13,630	75.10
6 日本	Japan	2,583,816	70.07	6,928	71.92
7 マレーシア	Malaysia	2,368,998	46.53	7,809	44.45
8 シンガポール	Singapore	1,957,479	47.52	6,682	247.31
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	1,674,202	103.45	5,624	99.13
10 アメリカ	United States	1,236,133	68.07	7,159	67.23
11 その他	Others	6,253,382	81.79	22,604	82.19
合計	Total	52,310,986	100.08	156,843	94.54

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09 〔見込み〕 〔Estimate〕	5,703 (91%)	2008 〔見込み〕 〔Estimate〕	1,223,305 (100%)	20,388

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2008年1月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of January 2008.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn, and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：ト、()内は60kg俵

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年実績	2004年実績	2005年実績	2006年実績	2007年実績	2008年予測 forecast	08/07(%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,503)	106 (1,770)	118 (1,971)	72 (1,202)	84 (1,403)	89 (1,486)	106.0
	輸出 Export	1,057 (17,652)	837 (13,978)	676 (11,289)	782 (13,059)	876 (14,629)	847 (14,145)	96.7
	計 Total	1,147 (19,155)	943 (15,748)	794 (13,260)	854 (14,262)	960 (16,032)	936 (15,631)	97.5
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,286)	71 (1,186)	92 (1,536)	74 (1,236)	78 (1,303)	88 (1,470)	112.8
	輸出 Export	431 (7,198)	516 (8,617)	454 (7,582)	392 (6,546)	274 (4,576)	276 (4,609)	100.7
	計 Total	508 (8,484)	587 (9,803)	546 (9,118)	466 (7,782)	352 (5,878)	364 (6,079)	103.4
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,789)	177 (2,956)	210 (3,507)	146 (2,438)	162 (2,705)	177 (2,956)	109.3
	輸出 Export	1,488 (24,850)	1,353 (22,595)	1,130 (18,871)	1,174 (19,606)	1,150 (19,205)	1,123 (18,754)	97.7
	計① Total①	1,655 (27,639)	1,530 (25,551)	1,340 (22,378)	1,320 (22,044)	1,312 (21,910)	1,300 (21,710)	99.1
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	64	88.9
	輸出 Export	217	386	295	241	256	253	98.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	317	96.6
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	24.4	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASSEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2009年7月号 NO.7 平成21年7月1日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず